

海外新聞

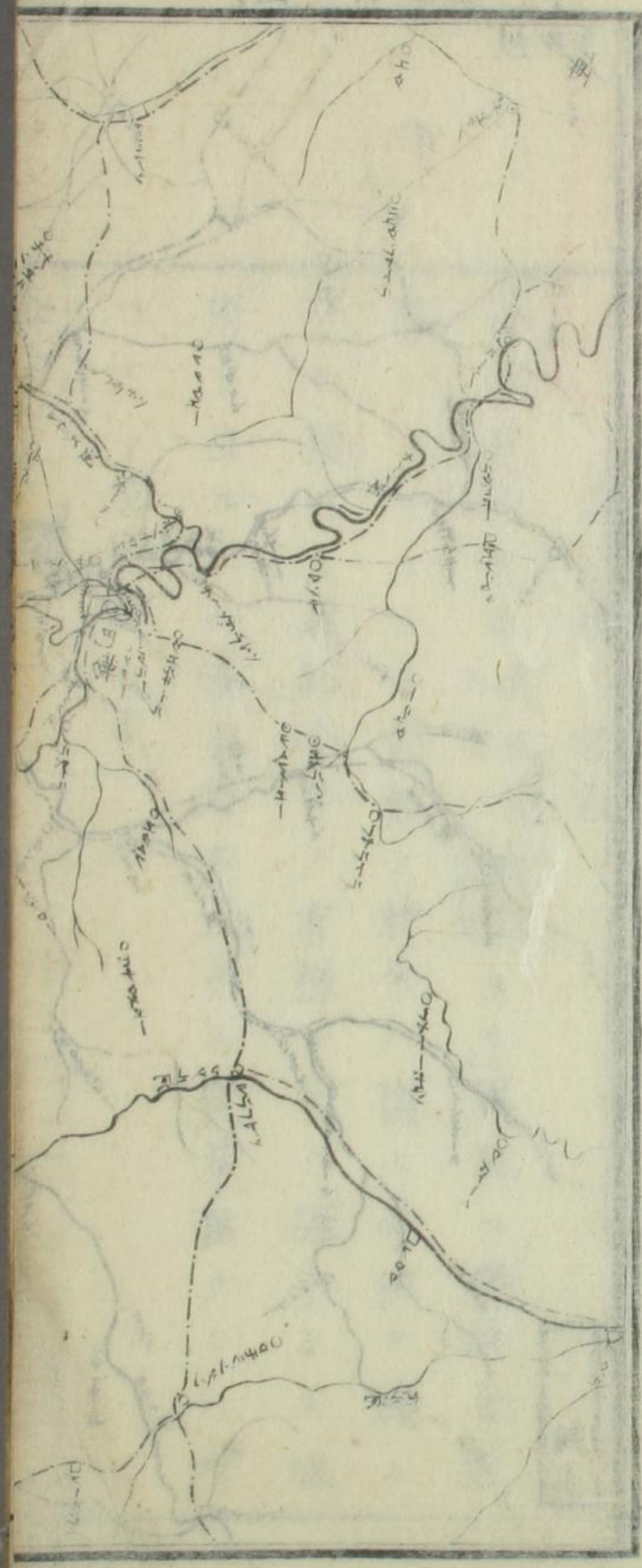
庚午十月廿六日

自
廿一
至
廿五
号



服部文庫
117
88
4

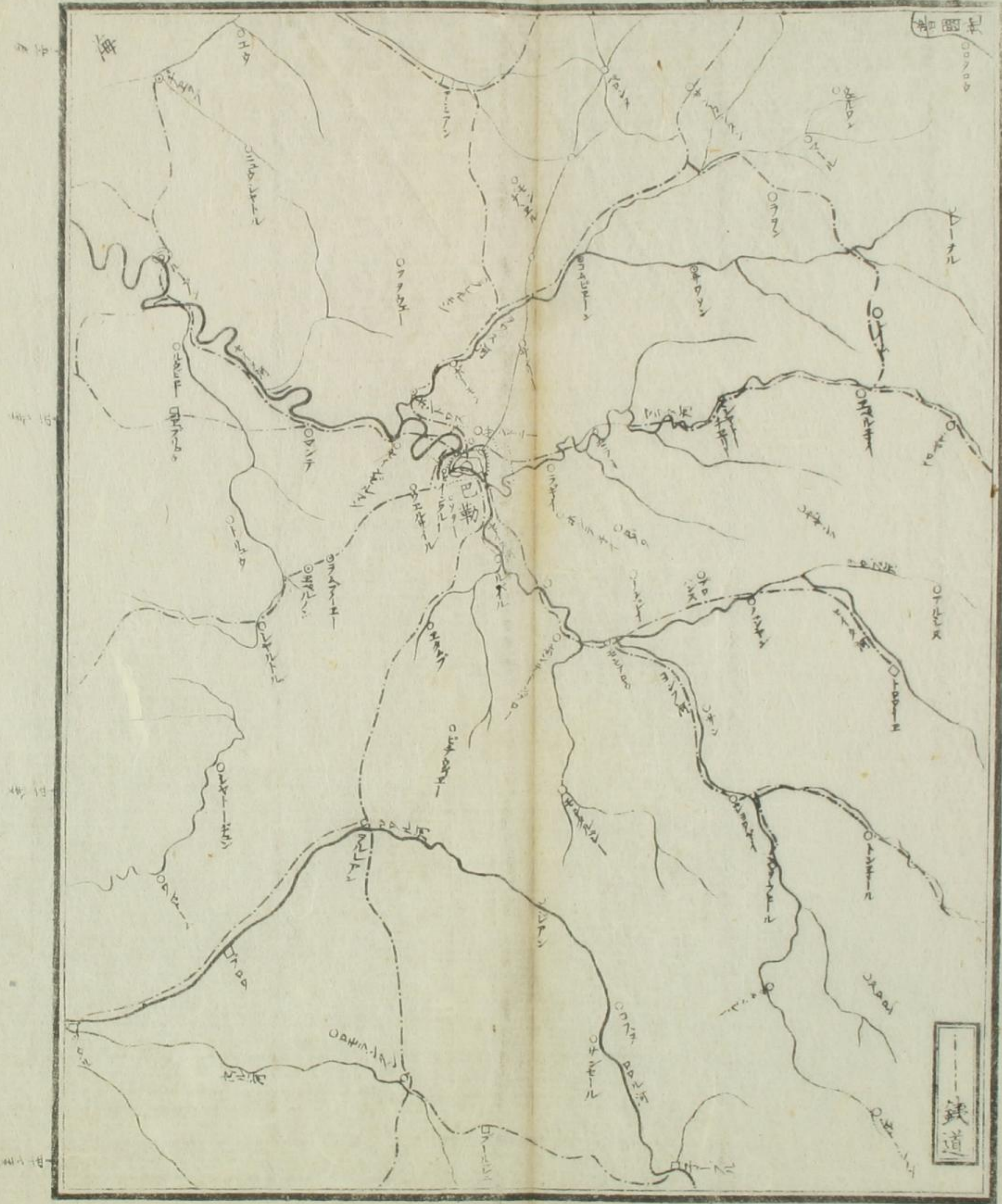




海外新聞二十一號
 一千八百七十年十一月二十七日
 三
 日
 三
 日
 三
 日

117
88
4

巴勒近傍之圖



海外新聞二十一號

千八百七十年第十月二十七日 我十月 橫濱

刊行ヂヤツパン、ヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

傳信機ノ報告

第九月廿七日 我九月 紐育ヨリ風説ニ佛帝拿破



歐洲各國ノ政事ニ関ル人皆歐全洲ノ争乱近ニ
在ル可シ其時ハ英奧魯ノ諸國モ傍觀シテハ居
ラレマシト思ヘル由ナリ
同日ブリュッセルヨリ佛ノズウーヴ兵隊メウド
ニテ合戦ノ時真先ニ逃レ始メシカハ卑怯ノ
振舞ナリトテ敵ノ面前ニテ刑セラレタリ
同日紐育ヨリ倫敦ノ新聞ニ昨日午後メッツニテ
佛將バゼイヌノ降参セルヲ載セタレトモ實
否未タ定カナラス

去ル廿三日我ハ月巴勒ノ近辺ニテ合戦アリシ
ト云フ一ハ後ニ聞ケハ實事トハ思ハレス
近日佛ノ新聞ニ拿破崙ノ密使佛ノ州郡ヲ廻リ
テ今般拿破崙ガ囚虜トナリタルハ全ク臣下ノ
為メニ賣ラレタルニヨレル由ヲ説キ因テ再ヒ
帝位ニ復ス可キヤ否ヤ衆議ニ任セタキ趣ヲ述
ヘテ國人ノ憐情ヲ引起サントセル由
同ク近頃ノ新報ニ普王今ハ夙ニ戦ヲ息メント
セシ望ヲ失ヘル由

同日夜半倫敦ヨリ只今巴勒ヨリ到着シタル使
 リニ佛ノ外務執政ジュールフレルトユオーント
 ビスマルクトノ應接ノ一ヲ記セル官報ヲ載セ
 タリ其趣左ノ如シ
 フアーブル自ラ普軍ノ本陣ニ到リビスマルクニ
 對面シ令般我邦ニテ帝位ヲ廢シ共和政治ヲ立
 タル一ハ我邦ト親睦ナル國々合衆國西班牙
 太利瑞西等ノ國
 ヲニテモ既ニ異議無キ由ヲ承諾シ且佛國ノ領
 内ヘヒ布令セル一ニテ余ハ即其新政府ノ使節

トシテ来レリトノ意ヲ述ヘケレハビスマルク
 其言ヲ聽キ答ルハ足下ノ言ヲ所其理ナキニ似
 タリ共和政治ナトノ國法ニハ我邦固ヨリ從ヒ
 難シ謂レナク巴勒ニテ私ニ取立タル假政府ヨ
 リ言送レル事決シテ承諾ス可カラス其上貴國
 政府ニテハ解和ノ事ヲ容易ニ執政一人ノ意ニ
 任セテ掌ラシムル事殊更ニ領成シ難シト言ヒ
 放チケルニフアーブルハ斯談判ノ整ハサルヲモ
 意トセス又我邦ニテ建國ノ法ヲ評議ス可キ會

議官ヲ設ケ新々ニ確乎タル政府ヲ立テ戦争ヲ
モ能ク處置ス可キノ全權アル執政ヲ撰任セル
迄ハ暫時間休戦ノ義聞入ラレタシト言ヒケレ
ハビスマルク曰ヘラク貴國ニテハ年来弊邑ヲ
侵畧セントソ企アリテ今ニテモ全ク此念ヲ絶
ル、ニハ有ルマシサレハ弊邑後來ノ安全ヲ保
タントニハ是非トモ貴國ヨリ領地ヲ割キ與ヘ
ラレ萬世弊邑ニ對シ鑿ヲ開ケルナシトノ證
ヲ請ハサルヲ得ス就テハハ、ラン及ヒヲウラ

ニノ二州ヲ割キメツツノ若ソランソワツツノ
二城ヲ納ルベシ否ラスンハ立言ノ趣意承知シ
難シト手強ク辨シタレハファールニハ大ニ憤
怒シテ我輩誓テ斯ル和約ヲハ肯ンゼストテ其
日ノ應接ハ終リタル由ナリ
同月廿三日 我八月廿八日 カルスビュルグヨリストラス
ブルノ城昨夕第五字普將ウエルテニ降ヲ納ル
此城ノ牆壁大ニ普軍ノ大炮ノ為メニ破壊セラ
レ勢旦タニ迫リタルガ城將ユルリク及ヒ守卒

等軍法ノ礼ヲ失ハスニハ城ヲ明渡スベキ旨申
送り兩軍熟議ノ上開城セシ由右ノ始末ハ本城
ヲ囲メル兵ヨリ申越シタルナリ此時普兵ノ欣
喜大方ナラス勝軍ノ祝儀ニハ定メテ祝炮ヲ放
ツナル可シ

同月廿八日我九月四日ツールヨリ昨日佛ノ執政等
相會シテ向後國ヲ守ルベキ策ヲ議スルニ言合
ハサ子ド皆手強ク決戦セント同意シタレバ然
レバカノ及バン限り敵ヲ防禦セント決定シタ

リ因テ國中二十五歳以上ノ男子ハ盡ク軍役ニ
加ハラシ事ヲ布令セリ

同月廿六日我九月二日紐育ヨリ今夜半別段ノ報告

ニ魯西亞ニテハ其國ノ南境ニ二十萬ノ兵ヲ集
ム之ニ依テ都爾格國人甚タ恐怖セル由

同日紐育ヨリ別段ノ報告ニ普ト墺ト同盟ノ議
整ハントセシニ翁瓦利州ノ者之ヲ妨ゲタルヨ
ホニガリ

シ風説アリト

第九月廿八日我九月四日伯靈ヨリ北日耳曼ノガゼ

ワト新報 此新聞ハ半ハ官家ノ用ヲモ達ス 今朝ノ便リニ米政府ノ速ニ佛ノ共和政治タル布告ヲ羨知セル事ヲ怒リ謗レル箇條ヲ載セタリ

同日伯靈ヨリ彼得堡ヨリノ便リニ魯軍ノ南方ニ進ミ行ク勢漸ク盛ナリ且其有様ヲ觀ルニ何處トハ定メ難ケレド去来トイハミ一時ニ其兵ヲ進ムベキ用意ナルベシト思ハルトナリ魯西亜ニテハ兵器餉糧ヲ十分ニ備ヘ何時ニテモ用ヒラル様ニ支度スベキ由ヲ命セリ

軍兵ヲ載セタル火輪車毎日モスコウヨリクルセツクニ往ク又兵糧武器等ヲ載セタル火輪車ハ諸道ヨリ南方ニ輻輳セリ

同月廿七日 我九月三日 ダンナグヨリ共和政治黨ノ首領ジャコビー議負クライゲルレスウイクノ人五人 連國ノ加比丹ハノーブル人三名 狀師一名學館先生一名皆國事ニ係リ犯シタル罪ニヨリテローツエンノ城砦ノ中ニ禁錮セラレ尚其外ニ國事ニ係リタル捕囚及ビ共和政治黨新聞

社ノ人等コーニングスビユルグノ城中ニ禁獄
セラレタリ

同月同日巴勒ヨリ日曜日ニ佛兵ノ一隊ウイル
シヨイフノ丘臺場及ビブリユジュールノ丘トニ
陣セル普兵ヲ襲撃ス此時佛兵ハ装劔銃ヲ用ヒ
タレバ普兵ノ死傷夥シト云フ又佛ノ水師提督
セイサル銃卒二百人海軍兵四百人鎗手ハコム
ペニローヲ率ヒテ敵兵ノ有様ヲ探索ニ来リシガ
普兵ヲドラニシ一村ヨリ追出セリ又佛將ブラ

ンゼーハプロフイセイニ大軍ニテ扣ヘタル普兵
ヲ撃チ苦戦ノ後之ヲ其地ヨリ追出セリ其後仏
兵ハ子細無クセインデニーマデ退キタリ

同月三十日我九月六日倫敦ヨリ佛ノ使節チユール

氏魯西亞ニ到ルニ宰相コルチヤコフ氏之ヲ接
待セシカ帝ヨリノ接待ハ之無シト云フ

昨日巴勒ヨリ来レル者ノ話ニ巴勒ニテハ万事
十分ニ整備セルヨシ○水曜日ニ里昂リ昂ニテ共和

政治ノ激徒騷乱ヲ起セシ時大将クリュセレー町

奉行所ニ乱入ス因テ衛國兵ヲ招集メシヨリ騷
動漸ク鎮マリ大将クリュセレー捕ヘラル
佛ノ歩卒一万七千人士官四百五十一人ストラ
スブールニテ虜ニセラル○普將フオゲル、フェルケ
ンスタイン里昂ニ進ム○普兵メジエールヲ困
マントノ用意ヲ為セリ○ストラスブールノ攻
城炮今將ニ巴勒ニ送リ到ラントス○メツ城内
ヨリ普軍ヲ撃テ小勝ヲ得タリ○巴勒ニテハ府
人皆憤勵ス○仏ノ守衛兵ノ手強クシテ規律正

シキ事實ニ感服スベシトナリ
十月一日 我九月七日 倫敦ヨリフェルリエールノ報ニ
仏兵普ノ第六番隊ノ陣営ヲ襲ヒシニ却テ大ニ
敗衄ヲ取レル由
佛ノ野武士等今般軍務宰相ノ管轄トナル○巴
勒ヨリ輕氣球再ヒ到着セリ
同日倫敦ヨリ彼得堡ノ官報ニ魯兵ノ進行セル
風説ハ訛傳ナル事ヲ載セタリ
先月廿七日ノ日附ニテ巴勒ヨリ來レル書簡ニ

普兵巴勒ヲ攻ルニ急ルヲ以テ城中ノ兵堪ヘス
 シテ大ニ之ヲ襲撃セントス
 スカンテリア船今日海中傳信線ヲ修復ノ為メ
 蘇士ヲ出帆ス其線ノ破損ノ所ハ蘇士ヨリ九十
 五里ニシテ水中三十尋ノ處ニ在リトゾ
 同日倫敦ヨリズルリモールヨリノ報ニ去月三
 十日ノ朝佛ノ正兵大勢城ヲ出テ普ノ第五六番
 隊ヲ手強ク撃チ二字間烈シク戦ヒガ佛兵死
 亡甚タ多ク終ニ城内ニ逃入りタリ普兵ノ死傷

ハ多カラズ仏人数百人生擒セラル此時普ノ太
 子^モ出馬アリタル由
 或ル日耳曼ノ便リニ第九月廿四日^我八月廿五
 日^我九月^朔ト兩日巴勒ノ市中ニテ戦闘アリタル
 事ヲ載セタリ
 同月二日^我九月^八日倫敦ヨリマクマホンハ今ニウ
 イスバーデンニ捕虜トナリテ居レル由
 普軍ノ巴勒ヲ攻ルヲ延引スルモノハ攻城炮ノ
 缺ルヲ以テナリサレドモ此砲頓テ到着スルナ

ルヘシ

去月廿九日ヨリ今日即十月二日ニ至ルマデ巴勒ヨ
 リノ新報無シ○ジュリー砦ノ將普軍ヨリ降ヲ
 納ルベシト言送リシニ之ヲ肯ンセサル由○ツ
 ールノ佛政府ヨリ國政會議ノ為メ來ル十月十
 六日我九月廿二日人撰ヲ為スヘキ布令ヲ出セリ○里
 昂ハ再ヒ静謐トナリタリ
 スタラスブル城ノ大將ユルリックツールニ着
 セレカバ人皆之ヲ懇待ス

同月同日倫敦ヨリ仏人ノメツヨリノ新報ニ仏
 將バゼーヌ第八月三十一日ニハヨリ來レル新聞
 第七九月ノ拔羣ノ功ヲ立テ第九月廿三日我八
 誤ナルベシ我九月ニ勝利ヲ得同廿九日我九月
 八ト廿七日三日ニ勝利ヲ得同廿九日我九月
 二城内ヨリ劇ク敵ヲ襲ヒタル由
 同月三日我九月倫敦ヨリツールノ仏政府ヨリ
 米國ノ大將ポールガルド氏ニ仏ノ南方ニ在ル
 陸軍ノ兵隊ニ同行スルヲ命シタリ
 日耳曼ニ在ル仏ノ生口總計十五万人アリ○ソ

海分新聞 十一
ワッソシヲ囿メル普兵城兵ノ為メニ屢退却ケラ
レタリ

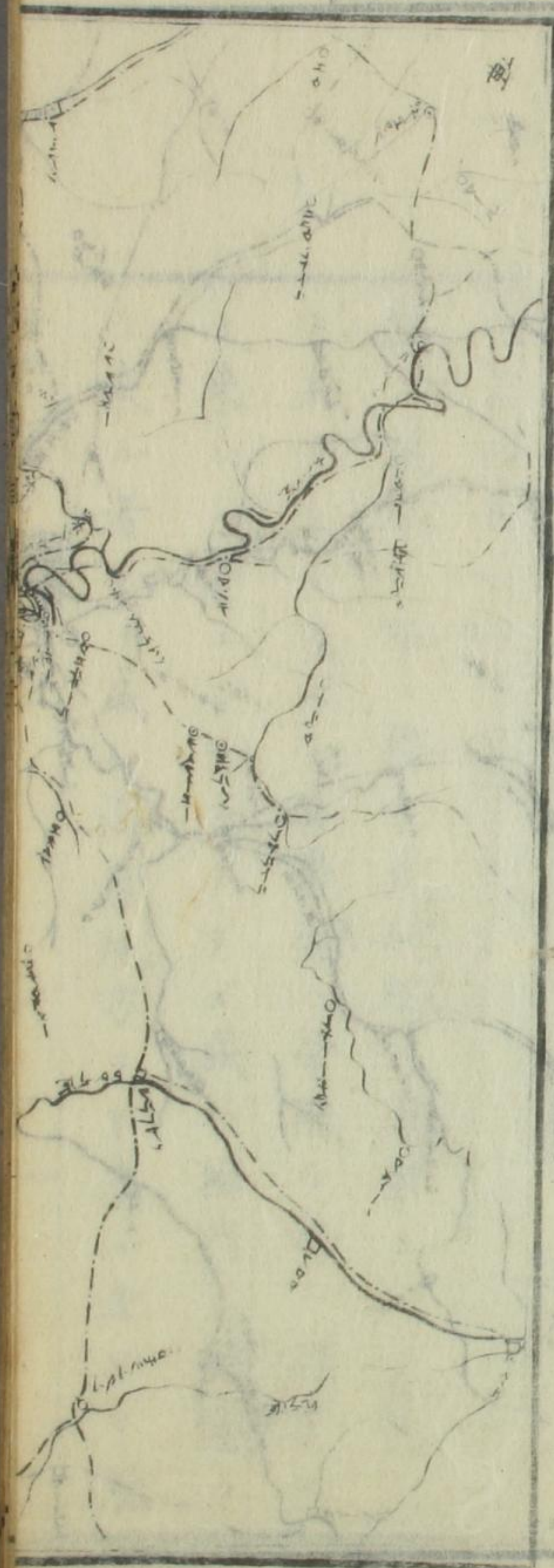
同上新聞ノ中ヨリ抄譯ス

倫敦ノ水晶宮ニ大地畧ヲ掛ケ人ニ觀セシム其
中ニ紙塑ノ兵卒アリ電機ノ信ニ随テ進退ス其
機極メテ精妙ナリ是ニ因リテ人皆新聞紙小地

畧等ヲ開クノ煩勞無クシテ精密ニ戰場ノ動靜
ヲ了悉スルヲ得ルトゾ

其傳書苗ノ王妃ノ許ニ贈レリ故ニ今迄ハ王妃ノ外誰モ両君ノ間ニ在リタル物語ノ始末ヲ知リタル者ナシ其出會終リ間モナク普相コオリシトビスマルクハ拿破崙ニ對面ヲ乞ヒシカ早速承引シ其時兩人ハ過キシセダンノ戦争ヨリ後軍事或ハ政事ノ景状如何成行シヤヲ俱ニ談シタリシガビスマルク拿破崙ニ帝ニハ今不幸ニシテ普人ノ手ニ在セシ上ハ貴國ニテ政府ノ職事ヲ掌ルハ何者ナルヤト問ヒシニ拿破崙之

ニ答ヘテ其儀ニ於テハ素コリ我一族ノ専ラ任スル所ナリト因テビスマルク再ヒ問フテ然ラハ貴朝ノ者我國ト和睦ヲ整フル事ヲ欲スルヤト言ヒケレバ帝答ヘテ今余ハ一囚虜ノ躬タルニ由テ我朝タモ自由ニ處置スルノ權無シ貴國ト和議ヲ講ス可キ我國ノ政府ハ現在巴勒ニ在ルモノナリト
 ビヌマルクハ其答ヘノ始終ヲ察スルニ拿破崙ハ普國ニ降レリトモ戦ヲ終ル手續ノ一端トナ



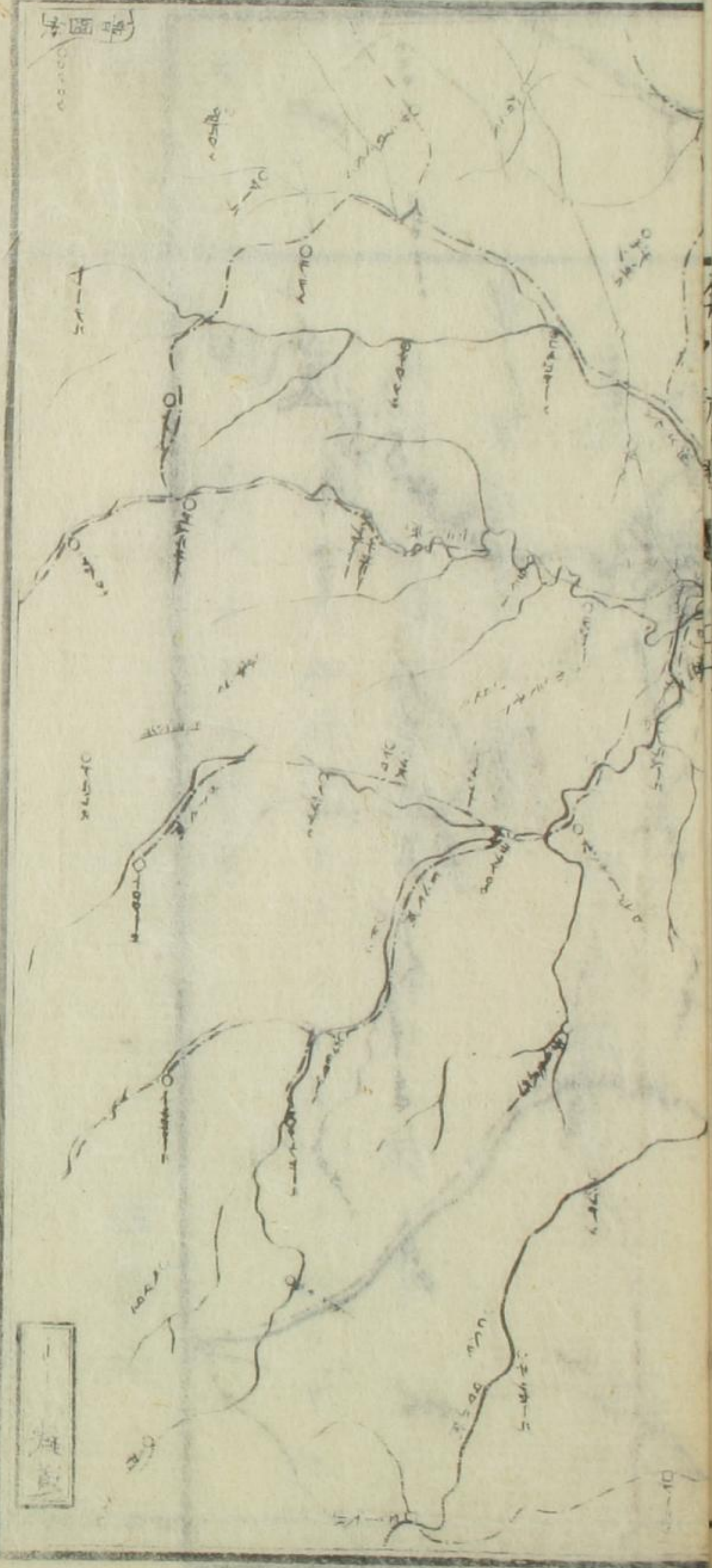
ル一能ハズトシテ其由ヲ普國ノ外國在苗公使
等ニ布告セシトナリ

此新聞ハ拿破崙帝普ニ降りシ時ノ事ニシテ
未ダ仏ノ共和政治トナリタルヲ知ラザル
時ニ當レルナル可シ

譯者誌

海外新聞二十一号畢

巴爾干新圖



号畢

海外新聞二十二号

千八百七十年九月三日 我八月八日 每週刊行倫

敦新聞ヨリ抄譯ス

米利堅ニ修業スル日本學生ノ事

八月四日 我七月八日 ニューヨーク、インジペンデント新

聞ニ現今日本ノ學生米利堅ニ遊學スル者幾ン
ト五十人ニ及ベリ其學生ハ帝國日本ノ諸方ヨ
リ来ル者ニシテ一ナラズ或ハ國內ノ諸藩ヨ
リ来ル者アリ或ハ海岸地方ヨリ来ル者アリ然

海外新聞 十二

シテ大名ヨリ命ヲ受テ来レル者ハ學費ハ其國
君ヨリ給シ又本國ニ於テ預メ學藝ノ試験ヲ受
ケ其内ヨリ拔擢セラレテ来ル者ハ其學費ハ日
本政府ヨリ給ス又稀ニハ其父母ヨリ學費ヲ得
テ修業スル者モアリ或ハ又米利堅人ノ仁慈ノ
心ヲ以テ日本ヨリ歸國ノ時其入費ニ拘ラズ共
和政治州ヲ遊歴セシメンガ為メニ携来レル者
モアリケルガ是ハ僅カニ一兩筆ニ過ス然シテ
御門^{ミカド}及ビ大名ヨリ給セル學費ハ一人ニ一年金

千元^{トス} 儲五十人ノ内二人ハ公卿^{キョウキョウ}御門^{ミカド}ノ息子ニ
ノ二人ハ大名ノ息子ナリ大名ノ息子ハ双刀ヲ
佩ル種族ノ中ニ属セリ又此日本學生ハ皆能ク
米利堅共和政治ノ事情ヲ能ク會得セリト思ハ
レタリ又インジペンデント新聞ニ此學生初メ
テ米利堅ニ到着セン時ヲ見ルニ慎ンデ日本ノ
風習ヲ守リ礼義ヲ重ジ其交際ニ於ル頗ル嚴格
ニレテ市中往来ノ時ハ身分卑下ノ者ハ必ズ前
立チテ行クナク常ニ貴顯ノ者ノ後ヘニ尾シ

タリ又互ノ叅會ヲ見ルニ上下ノ分ヲ正フレ言
語ヲ異ニレテ以テ談話ス察スルニ是レ日本ノ
言語ハ尊卑ノ別アリテ語法出ル所自ラ異ナル
ト見ヘタリ然ルニ此礼法言語ノ區別アルモ到
着後僅ニ二三週ノトニレテ爾後更ニ隔テナキ
ニ至レリ又其性質ヲ見ルニ器達英才ニレテ能
ク事理ヲ解シ記憶頗ル敏捷其論說ニ至リテハ
寂モ妙ナリ偕其學生中ノ第一等ニ在リテ長所
トスルハ殊ニ算術ニ在リ此術ニ於テハ實ニ社中

之ニ敵スル者無シ又能ク究理ノ學ヲ好ミ外國
ノ語ト雖モ若シ音聲ヲ除カハ成業ノ學生トシ
テ十分可ナラシ又好シテ史記ヲ讀ミ性理ノ學
ヲ講セルカ之ヲ説クト甚タ容易ナルト是亦稱
譽スルニ堪ヘタリ元來其性質タル常ニ丈夫ノ
氣ヲ失ハス勇悍ニシテ度量寛大ナルヲ以テ深
ク同輩ニ貴重セラレ親シク交リテ遊戯ヲ共ニ
シ樂ミヲ同フシケリ其滞在スル市街ノ人民ニ
至リテモ亦鄭重ニ以テ饗シ聊輕蔑スルト無シ

トナリ

西班牙

西班牙國ノ北州ニカールスト党蜂起セシカ到
ル處敗績シ遂ニ事成ラスシテ仏國ニ逃走ス然
ルニ仏國ニテハ得タリト皆兵器ヲ奪掠シタリ
シカハ一揆畏縮シ悉ク平定セリトノ由バスコ
||ノ鎮臺ノ報告ニ此一揆ノ原由ハ全ク僧徒ノ
說法ニ基ク所ナリトノ旨ヲ述タリ

和蘭

和蘭政府ニテ今般小府ニテ三十三ポント凡百六十
五下大府ニテ五十ポント餘ノ入高ヲ得ル者ヨ
リ租税ヲ納ムベキ法律ノ議案ヲ議院ニ出タシ
タリ諸其取リ上ケノ高ハ年々公會ニ因テ之ヲ
定ム可キトノ事ナリシカ千八百七十年ニハ其
定メタル高ヨリ過キタル入高ニシテ百分ニ付
五厘ノ税トナル可キ由又以後總テ職業貿易ノ
免狀ニ税ヲ出ス事ヲ廢セントス然ルニ此免狀
ノ税ハ千八百六十九年國中ノ提高六百五十万

ポントノ内右税ノ上り高殆ント二十八万ポントニ至レル由ナリ

日月曼國

伯灵ニ於テ日曜日ニハ盛ニ場ヲ開キ近時ノ戦争ニテ仏國ヨリ奪掠セル物品ヲ列子シカ之ヲ受ケ取ランガ為メニ王妃宮殿ヲ出テ自ラ其場ニ至リタリト此時ノ物品ハ如農ミトライリヒス砲并ニ旗章等ナリシ此日ヤ天氣清明ニシテ人民羣集シ皆意氣揚々トシテ感悦ノ色ヲ顯

ハシタリ此時日耳曼人ノ心中ヲ察スルニ皆奮勵シ急ニ佛國ニ攻メ入り巖シク攻撃シ一舉シテ佛領アルサス及ビロレーンノ二州ヲ略セントノ氣勢ナリト又伯灵ノ居民貴重者者會議ヲ催フシ普王ヲシテ和議ヲ整ヘントスル外國ノ勸解ヲ断然肯セサルトニ決意セシメントノ評決ニ及ヒタル由此論國內處々ノ大都會ニ於テモ皆同心一致セリ

奥地利翁牙利 奥地利翁牙利ハ即

壤地利ニ於テチエック人ト日耳曼人トノ間ニ生
シタル不和ヲ整ヘントスル端ヲ發シ日耳曼及
ビチエック党ト互ニ使者ヲ出シ先ツチエック党ノ使
者日耳曼党ノ方ニ至リテ雙方議員五名ノ總代
ヲ以テ相會シ現今國內ニ起レル人心ノ不和ヲ
鎮靜センガ為メ會議ヲ為スコシトノ事ヲ述ヘ
タル由多クハ日耳曼党之ヲ兼諾シ和議整ノフ
可シトナリ又是也納ヨリギエスタフ、ホン、ストリ
ーブノ死去ヲ報シタリ此ストリユーブ氏ト云ヘ

ルハ世ニ普ク通知スル頗ル人望ヲ得タル者ニ
シテ曾テ日耳曼ニ於テ瑞西國ノ法ニ從ヒ日耳
曼政体ヲ共和政治ニ為サントスル主意ヨリ人
民動搖シ國中騷乱ヲ生シタル時ハ此人フレデリッ
キ、ヘッケルカール、ブリンント共ニ其主謀タリシ
ナリ元來此人公族ニシテフランクホルトノ公
會ニ於テハ使節ノ任ヲ受タリシカ共和政治ノ
論ヲ主張シタリ又萬國公法并ニ萬國史ノ書數
卷ヲ著ハシ曾テ米國騷乱ノ時ニ方リ本國ヲ去

リヘツケルレシールゲル及ヒスキュルスノ如ク米國ニ
往テ戦争ニ加ハリ北部ニ加擔シテ大ニ之ヲ援
ケル後再ニ本國ニ歸リテ身ヲ生涯文事ニ委子
終リタリト云フ

希臘

今般火曜日ニ希臘ノ女王アレキサンドラト稱
フル女子ヲ設ケタリト云フ
曾テ希臘ニ於テ殺害サレタル英ノルロイトノ
寡婦ノ為メニ英國政府ヨリ償金トシテ一萬ポ

ント五万ヲ希臘政府ニ望ミタルガ之ヲ兼諾シタ
ル由

魯西亞

グレント、ジューカ、ニコラスノ命ニ因テカラス
ーセロニ於テ練兵ヲ畢リシ後定則ノ通り衛兵
九月十五日迄休暇ヲ得各隨意ニ職業ヲ務ム可
キ旨ヲ報告セリト云フ

澳大利亞

澳大利亞ノ内ヒクトリアニ移住スル人民救助

ノ策定マリ英國公會ニ於テ年々六万五千ポ
トヲ以テ助ク可キ事ニ決レタル由然ルニ之ヲ
用フルノ規則以前救助ノ時ノ如ク甚々嚴ニシ
テ異ナルヲ無シ因テ其旅費無クシテ自在ニ通
行スルヲ得ル者ハ独リ家婢ノミニ限リ其餘ハ
悉ク朋友ノ名當ヲ以テ政府聽濟ノ上旅費ヲ拂
テ通行スルヲトシ但シ年齢ニ從テ旅費一ポ
トヨリ八ポントノ差別アリ又南澳大利亞ニ於
テモーント、マルカリットヨリ北西ニ方テ新タニ

一良國ヲ檢出シタル由ノ報告ヲ得タリ
近頃ワード尋常ノ山賊ニ非ス罪科ヲ逃ト名付
ルマリーヤウスウエールスノ山賊實ニ驚怖ス
可キ者ナルガ巡捕馬上ニテ之ヲ追ヒ抵ケ更ニ
人跡無キ寂寞ノ地ヲ數日間追躡シテ遂ニ撃チ
止メタル由其山中追躡ノ時ハ遂フ者ト逐ハル
、者トノ兩人ノ外唯禽獸ノミニシテ更ニ人体
ヲ見タルヲ無リシト此巡捕ノ剛敢ナル實ニ驚
ク可キニ堪ヘタリ

千八百七十年第十月三十一日我十月七日横濱
刊行佛文エコー、デュヂャツボン新聞ヨリ抄譯
ス

佛蘭西共和政治ノ布令文

我佛國ノ士民ハ
汝等士民ハ議院ニ先チ國ノ危急ヲ救ンガ為メ
共和政治ノ政体ヲ立ン_トヲ求メタリ
汝等士民ハ其名代タル議員ニ_テ推ヲ授ケタ
ルニハアラス又危難ヲ防ク可キ_トヲ任シタル

ナリ

嘗テ千七百九十二年我寛政ノ外寇ヲ防キシハ四年共和政治ヲ以テセリ故ニ今又共和政治ノ政体ヲ布令ス

此政体ノ變革ハ正理ト國益トノ為メニ為セル所ナリ

汝士民等其委託ヲ受ケタル首府巴勒ノ為メニ專ラ意ヲ用フ可シ然ラハ則チ兵隊トカラ合セ國辱ヲ雪カント近キニ在ル可キナリ

エマニユエルアラゴ 手記

クレミユウー 同

ドリアン 同

ジュール、ファーブル 同

ジュール、フェリー 同

ギョー、モンペイルウ 同

レラン、ガムベツタ 同

ガルニエール、パーゼエ 同

マグナン 同

ヲルヂ子イル

同

ア、タシヤール

同

エ、ペレタン

同

エ、ルンスト、ビカール

同

ジュール、シモン

同

巴勒府ノ士民へ

此度共和政治ノ政体ヲ布令シタリ
其政権ヲ握ル人々ハ國民皆悦テ之ヲ選任シタ
ル者ナリ其姓名ハエ、マニユ、エ、ル、アラゴクレ、エ、ウ

ー、ジュール、ファールブル、ジュール、フェリー、ガムベッタ、ガル
ニ、エール、パーゼ、エ、グレイ、ビソワン、ペラタン、ピカ
ール、ロシ、ホール、ジュール、シモン等ナリ

巴勒人民ノ名代人等へ

ゼ子ラール、トロシ、ウハ、國ヲ防守スルノ兵権ノ
委任ヲ受ケ、政府ノ首班ニ任セラル
政府ヨリ士民等ニ静謐ヲ守ル可キヲ命令ス
又士民等ニ敵兵ノ接近シタルヲ忘ル、ヲ勿
レト命ス

此度設ケタル政府ハ殊ニ國ヲ防守スル為メノ政府ナリ

佛國防守ノ為メノ政府官負

トロシユー初メ連名

佛國防守ノ為メノ政府ヨリ左ノ如ク執政數負ヲ任シタリ

外國事務執政 ジュール、ファーブル

内國事務執政 ガムベッタ

陸軍事務執政 ゼ子ラール、フロー

海軍事務執政 アミラル、フルニシヨ

裁判事務執政 クレニウー

會計事務執政 エルンスト、ピカール

教育法教事務執政 ジュール、レモン

土木事務執政 ドリアン

農業貿易事務執政 マグナン

參議官ノ首班ヲ為ス執政ノ職ハ之ヲ廢ス

ステーナケルハ傳信機掛リ總督ニ任セラレタ

佛國防守ノ為メノ政府ヨリ又令シテ曰ク下議院ハ之ヲ解散シ上議院ハ之ヲ廢ス

トロシュイ初メ連名

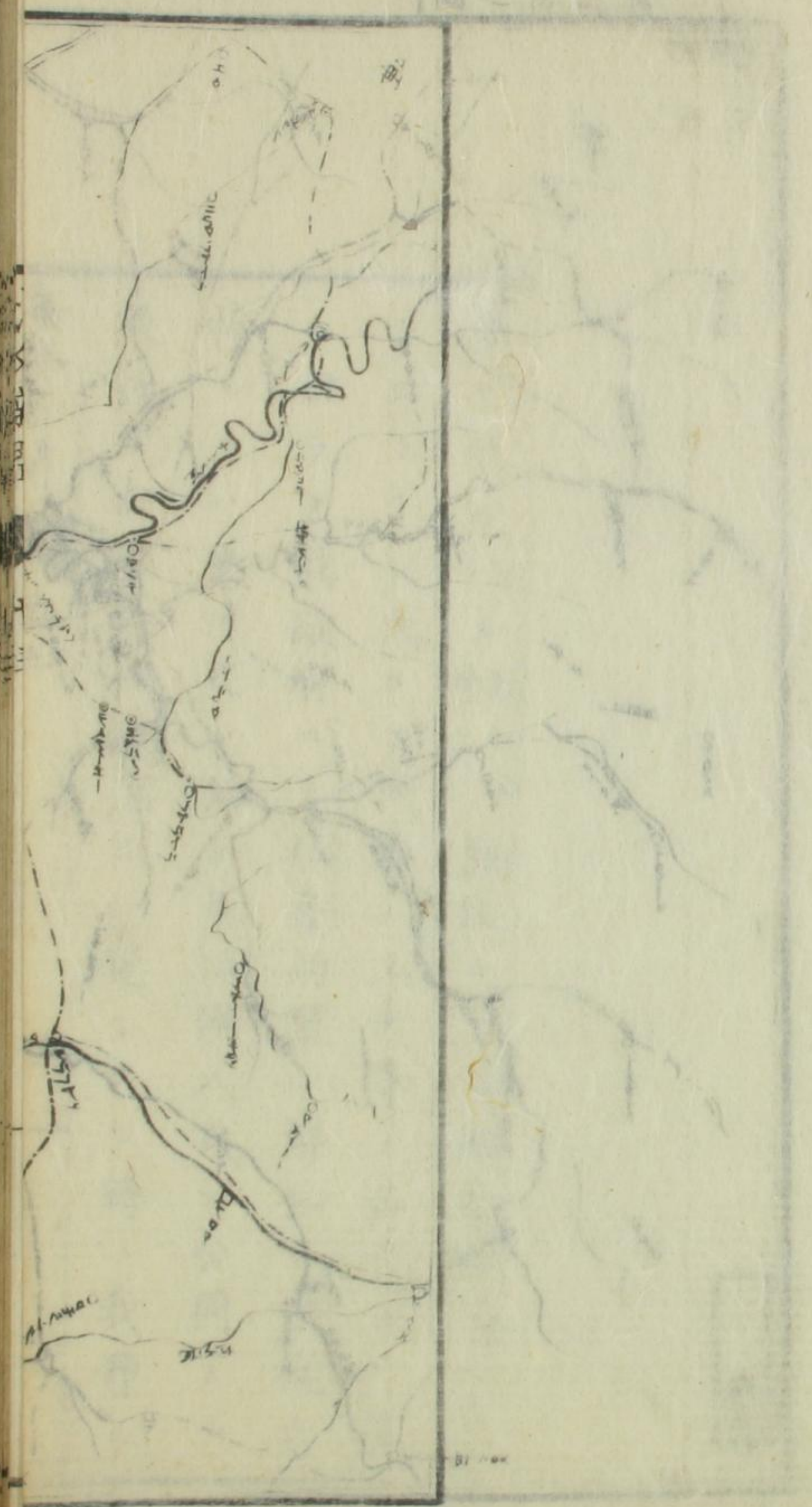
千八百七十年第十一月五日我十月十二日横濱刊
行仙文エユーヂュヂヤツボン新聞ヨリ抄譯
ス

リュウテル氏傳信機ノ報告

第十月九日我九月十五日朝第七時倫敦ヨリ巴勒ノ形
勢ハ猶變スルヲ無シ○佛兵ピチウイエーニ屯
集セル由○普兵ノ先鋒ドリューニ入りタル由○
普兵カンカンタンヲ襲撃セシガ仙兵烈シク防
戦セシヨリ遂ニ追卻ケランタリ

巴丁國ノ兵普ニ與昨日ウラージニ郡ノレミイノ
 近傍ニテ仙ノ常備兵及ヒ野武士等ト戦ヒ之ヲ
 敗リ士官六十人兵士六百人ヲ生虜ト為シタリ
 ○佛ニテハベガシソン及ヒ里昂ノニヶ所ヲ防
 守セントノ用意ヲ為セリ
 嘗テ羅馬法王ニ属シタルガローグ隊ノ兵士セ
 子ラールシヤレットノ指揮ニテツウルニ於テ普
 兵ト戦フノ備ヲ為セル由
 ガリバルギツウルニ來着セルヲ以テ佛政府ノ

クレミユーウ及ヒグレイ、ビゾワシ并ニ仙ノ郷
 勇等大ニ悦テ之ヲ接待シタリ
 仙ノ内國事務執政ガムベッタハ國力ヲ尽シテ敵
 ヲ防ケル備ヲ為スノ全権ヲ任ゼラレタリ
 仙ヨリ歐洲強大ノ中立數國ニ送レル使節チエ
 ールハ以太利ノ都府佛稜ニ向テ進祭シタリ○
 普兵ユウル郡ノウロント云ヘル地ニ入りタリ



海外新聞廿二號畢

海外新聞

巴勒近傍之圖



海外新聞二十三号

千八百七十年十一月五日 我十月十日 横濱刊

行ギツパンヘラルド新聞ヨリ抄譯々

仏普戦争傳信機ノ報告

第九月廿八日 我九月四日 倫敦ヨリ英國執政ダレソ

於テモ速カニ之ヲ承諾ス可レト
 第十月四日我九月十日 同所ヨリ我九月十日 仙ノ軍務總裁ト口
 シウハ第九月三十日我九月六日 其兵ノ巴勒ヲ出テ
 戦フタル有様談話シテ曰ヘラク仙兵ニハ要害
 ノ地ヲ占據シ暫時ノ戦争後ニ於テ隊伍ヲ整ヘ
 其城内ニ退キタリ此時味方ノ戦死多シト雖モ
 敵方ニハ尚一層多カリシト
 日耳曼兵ハツト仙ノ假政府有ルノ地ヲツリ
 ニ屯集ノ哩昂ニ進發ノ用意ヲ為セリ

仙國公使チエールハ第十月二日我九月八日 魯國ニ
 テ魯帝ヨリ饗應ヲ受ケ四日同月十日 ハ興都維地
 納ニ赴ク可キ由ナリ
 羅馬ノ士民等自國法王ニ服従スルヲ欲スル
 ヤ或ハ以太利國王ニ從屬スルヲ欲スルヤト
 其衆説ヲ取リシニ以太利國王ニ從屬センヲ
 欲スル者四万人ニシテ法王ニ服従センヲ欲
 スル者ハ僅ニ五十人ナリシト
 亞國ヨリ仙國へ許多ノ兵糧兵器等ヲ運送セリ

同月五日 我九月十一日 同所ヨリメツ城ノ郭外ニ於テ
刺シキ小戦アリシガ普人ノ風評ニ依レバ仏兵
大ニ敗衄シ死傷モ多カリシ由ナリ
火曜日 我九月ノ午前中仏普エペル子ニ於テ
接戦シタリシガ其勝敗未タ知レズトナリ
又仏普ホンテニングロウトオルレアントノ間
ニ於テ戦争數合ニ及ヒタリ
昨日 我九月ツウル府ニ於テ高名ナル普將ホ
ンモルトック死去シタルトノ風評アリ

ウイレルムスホー 拿破崙禁錮ニ於テ記シタル
拿破崙帝ヨリ普王ニ贈リタル書翰中ノ言ニ方
今仏國ニ於テ侵入ノ敵兵ヲ退卻ス可キ良策ア
ラハ余カ一族全仏ノ帝位ニ昇ル可キ權ヲ失フト
モ更ニ遺憾之無ク且今度ノ戦争ハ余一人ノ起
タルニ非ス余ハ唯國民ノ希望スル所ヲ聽從
シタルノミナリ故ニ我邦ニ於テ普國ヨリ申出
セシ箇條ヲ拒ミテ鮮兵ヲ肯ゼサルハ誠ニ相當
ノ處置ナル可シト又曰ク我邦即國ト永世不朽

ノ盟約ヲ結ハン_一無二ノ良策ニシテ久シク連
戦ニ及ベル時ハ仏ヨリモ却テ日ノ為メニ許多
ノ損害アル可シトナリ

第八月中旬ヨリ普兵ビイチ城ヲ囲ミ此城砦ニ
向ケ弾数二万發ヲ放ケタルニ其砲終ニ破損シ

軍事ニ供スル能ハズ又攻手ナルウエルテムボ
ルク普軍ニ属ノ兵隊ハ既ニ退卻シ巴維里亞此
普ニ属マノ兵隊ハ乍候隊トナリ猶此城ヲ囲ミ
シニ城兵城ヲ出テ敵兵ヲ襲撃シ敵ノ砲臺ヲ破

リ民舎及ヒ敵ノ外營等ヲ焼拂ヒタリ

同月六月十二日我九月十日同所ヨリ普兵ニハ巴勒ノ城砦

ヲ襲フテ火攻スルノ用意全ク備ハリ攻城砲ト

臼砲トハ既ニ至當ノ場所ニ配備シタリ

昨五日我九月十一日ヲルレアン鐵路ノ近傍ニ在ルツ

ウリ_一ニ於テ戦争ケリ

此時仏ニ於テハ敵ノ騎兵四百騎ト歩兵二千人

ヲ急ニ巴勒ノ方ニ退陣セシメタリト云フ

拿破崙帝ノ書翰ハ其真否疑ハシキ由ナリ

同月同日同所ヨリ火曜日我九月十日ノ戦争ニハ日
兵勝利ヲ獲テエペルノンヲ攻取リタリ此時仙
ノ郷勇兵ハ普ノ一分隊ヲホニテインブロウノ
林中ニ追卻ケタリ
普兵ハベルリエールノ本陣ヲウエルサイルニ轉シ
タリ
普ニハ此迄仙國ノ領シタルニース府ヲ以太利
國ニ附與セントノ隱謀之レ有ルトノ風評アリ
オデツサ魯ノ鎮台ハベスサラビア同ニ於テ

魯兵ヲ屯集セシ一全ク之無キ旨ヲ陳説セリ
同月七日我九月十三日同所ヨリ普兵ハエペルノンヲ
引拂ヒツウリヨリエタムプ迄引退キタリ
普兵千五百人ラムブウイエーヲ占領シタリ
普兵メジエール以國ト仙國トノ國境ヲ攻圍セ
シヨリ比利時國ノ兵隊ハ其國境ノ警衛ノ為メ
ニ進發セリ
同月同日同所ヨリツウルニ在ル仙ノ政府ハ其
國各州郡ノ人民皆奮發シテ兵籍ニ入ランヲ

欲シタルト并ニ兵隊ニ軍律ヲ遵守セシムル為
メ嚴格ノ方法ヲ採用ス可キノ報告ヲ得タリ
普兵ハノルニシテ州名ヲ侵サントスル模様
アリ故ニ其地ノ牛羊鶏豚ノ類ハ盡ク其内地ニ
送リタリ

グレイベゾニイ氏ヨリ紳士ノ選舉人ニ贈リタ
ル書翰中ニ方今大軍隊ニ隊ヲ編製シ以テ巴勒
應援ニ供マ可キ旨ヲ記シタリ
方今仙國ニテ糧食ノ價甚ク騰貴シタリ

普兵ハニウブリサク城ヲ火攻セリ

同月八日我九月十四日同所ヨリガリバルヂ氏仙ノ
ルセイルニ到着セリ

昨七日仙普ウヲ一ゼ州ニ於テ戦争セリ互ニ勝
敗無シト云フ

普兵ハナンドリスニ進メリ

同月同日同所ヨリ昨七日ノ普國ノ官報ニ仙將
バゼイス普將リユムルノ兵隊ト普ノ十番隊ト
ヲ襲ヒ夜ニ入りテ猶戦ヒ止マサリシカ仙兵全

敗衄シ死傷多カリシト普兵ノ戦死ハ六百三十人ニ及ヒタリト

十月九日我九月十五日仙ニハ普兵サンカンタンヲ来

襲セントノ事ヲ推察シ防戦ノ準備ヲ為セリ

仙ノ執政ガムベツダハ議院ノ人撰ヲ延ス可キ旨

ヲ記シタル布告書ヲ持参シ輕氣球ニテ巴勒ヲ

出タリ

日兵ヨリ領略シタル仙國何レノ州郡ニテモ若

シ戎装ノ民兵隊ヲ屯集セシムル時ハ罰金トシ

テ其一州郡ヨリ百万フランク凡ソ我ニ差出

ス可キ旨ヲ公告スルノ模様ナリト

日人ノ評判ニ佛兵金曜日我九月三日ニメツツ城ヲ出

テ戦フタル時其戦死二千五百人ニ及ヒタリト

千八百七十年十一月五日 我十月十二日 横濱刊
行每週新聞ヨリ抄譯ス

過日東京築地ニテシチ、オフエド名号ノ飛脚
船蒸氣罐破裂シ乗合ノ日本人多ク死傷シタル
ニ因リ其死傷人ヲ救恤センガ為メ其頃横濱在
留ノ外國人ノ内ヨリ各金ヲ出合ヒ二千十兩 洋銀
千八百元ノ金高ヲ集メ此配與ヲ亞國 留士シハ
ルト氏同國フルベッキ氏英國醫官ホウレル氏副
岡士ホール氏等ノ四名ニ囑シタリ

右金高ノ集メ方ハ過日既ニ了シタレモ今日ニ
 至ル迄其配與ヲ遲延セシ故ハ專ラ之ヲ周旋セ
 ル四氏ノ精詳至當ノ配與ヲ為サントセシヨリ
 起リシトニシテ既ニ右四氏ニ於テハ疵傷ノ輕
 重ヨリ其人ノ貧富家族ノ多少及ヒ其年齡且疵
 傷平愈ノ日數等ニ至ル迄悉ク問究識得シテ右
 金子ヲ第三様ニ配與シタリ其區別左ノ如シ

第一 人員二十七人

但シ一人ニ付四十五兩宛ニシテ總計千

二百十五兩

第二 人員十五人

但シ一人ニ付三十兩宛ニシテ總計四百
五十兩

第三 人員二十三人

但シ一人ニ付十四兩宛ニシテ總計三百
四十五兩

右總計合テ二千十兩

此救恤ニ預リタル困窮ノ疵傷人ハ殊ニ厚ク之ヲ

礼謝シ其外國人ノ懇切ハ東京府内ニ於テ普ク
之ヲ通知スル所ナリ

右金子ノ配與ニ注意勤勞セシ四氏ノ如キハ外
國人等ニ於テモ亦深ク礼謝ス可キ者トス可シ

千八百七十年十一月十日 我十月十七日横濱刊
行ダヤッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

佛國假政府ヨリ其軍兵へ共和政治ノ布
告

ジューナラルヲヒレエール新聞ニ佛國假政府ヨリ
軍兵へ共和政治ノ布告ヲ記シタリ其文ニ曰ク
今度ノ戦争ニ我國ノ不幸ヲ招クノ咎責アル帝
位ヲ廢シタルハ實ニ至當ノ處置ニシテ且自
國ヲ守護スル為メニ裨益アル者ト謂フ可シ故

ニ我國民ニ於テハ確然不拔ノ政躰ノ改革ト比類ナキ勇猛トノ二事ニ依頼セシテヲ要スベシ特ニ我政府ノ如キハ一徒黨ヲ結ビ偏頗ノ處置ヲ為ス者ニハアラズ專ラ全國ヲ守護スルノ政府ニシテ軍兵國民等ノ力ヲ戮セ以テ全國ヲ安寧ナラシメントノ趣意ナリ

新聞紙及ヒ著述等ノ印稅ヲ廢止シ及ヒ旧政府廢帝拿破崙在位ニ勤メタル諸官人ノ盟約ヲ免ノ時ノ政府ヲ云シ之レヲ新政府ニ勤メシムル等ノ事ヲ普ク

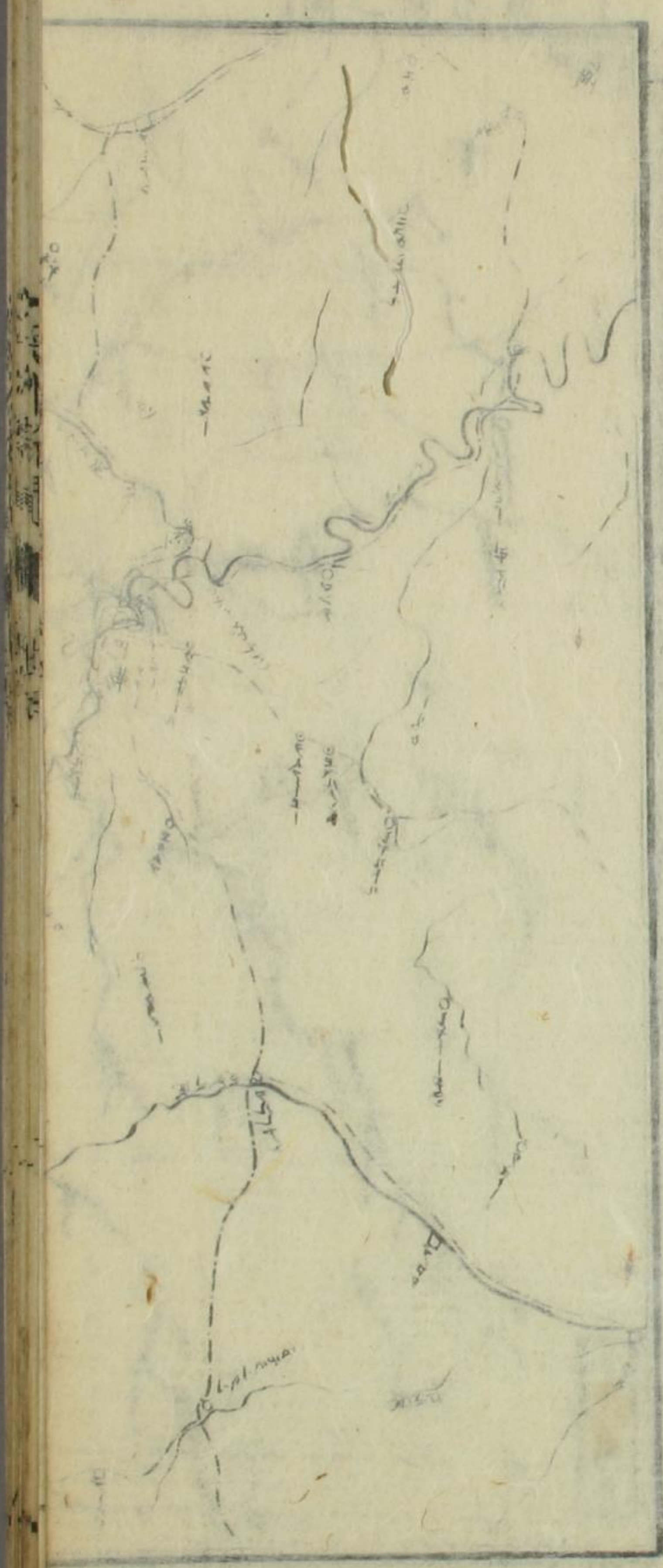
國內ニ布令セリ

佛國共和政治党ノ工人ヨリ日國ノ共和政治党ニ贈リタル書翰

佛ノ工人社ヨリ日ノ共和政治党ニ贈リタル書翰ニ今度貴國ノ政府ニ於テ軍ヲ起シタルハ全ク我帝拿破崙ニ對シタルニテ我輩ニ對シテ起シタルニテハ毫モ之無キ旨ハ嘗テ貴政府ヨリ布令アリシ所ナリ是ヲ以テ今貴國ノ兵隊ヲ佛ノ邦内ヨリ退カセシムルハ我邦共和政

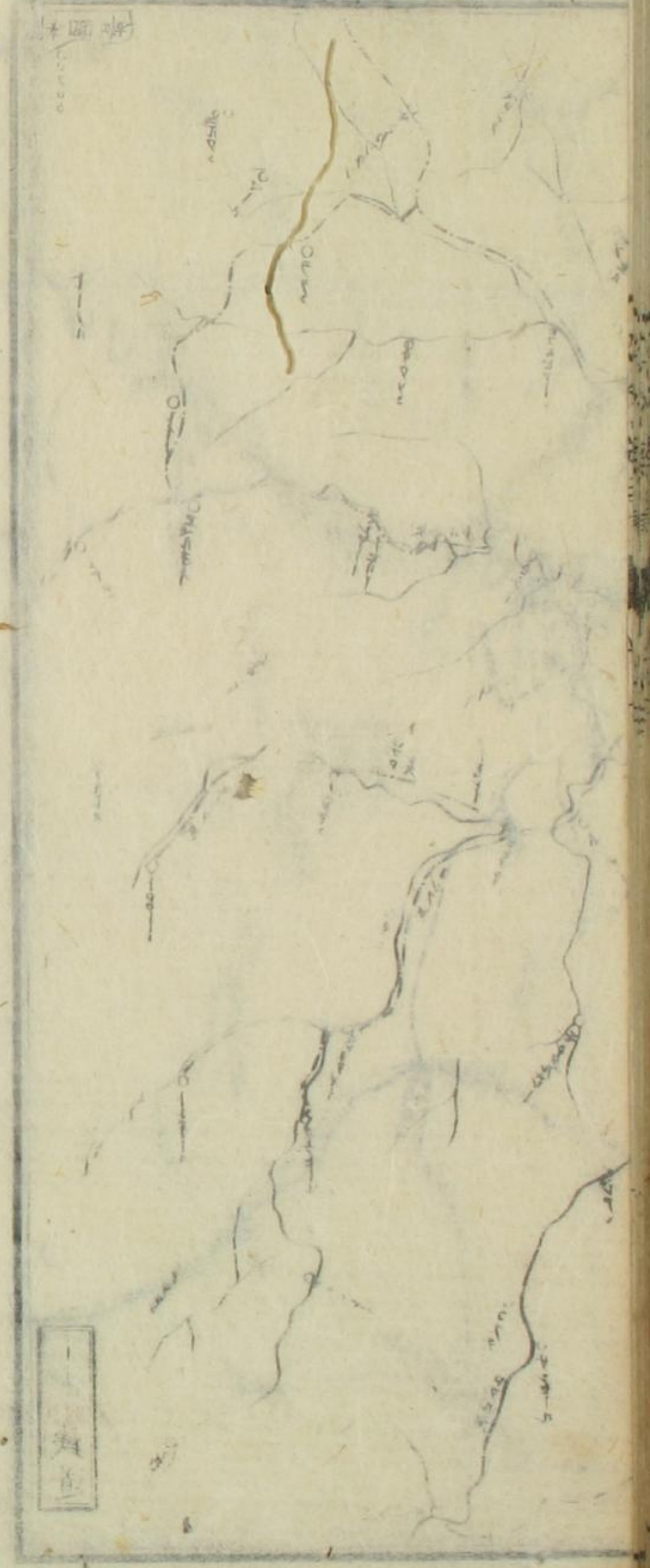
治党ノ人民正理ヲ以テ只管貴君等ニ求ムル所
ナリ若シ之ヲ肯ゼズレテ貴國ノ兵退カサルニ
於テハ我邦ニ一卒タモ生存スル中ハ必ス防戦
シテ貴兵ト互ニ相鏖戦スルニ至ル可シ抑、仙ノ
人民敵兵ノ自國內ニ在ル間ハ決シテ和議ヲ構
セザルヲハ往ニ千七百九十三年ノ歐洲會盟諸
國ニ言送リシ所ナルガ今又再ヒ貴君等ニ其事
ヲ演述スベシ夫レ佛ノ人民ニ於テハ各邦民ニ
モ朋友ノ情厚フシテ他邦ノ政事ニ對シ苟モ妨

害ヲ為ス者ニ非ス故ニ今貴國ノ兵隊萊尼河ヲ
渡リ我國ヨリ退クニ及ンデハ余輩直ニ貴君等
ト親睦ヲ結シ是迄仙ノ兩國ヲ專制スル帝王ヨ
リ起リ遂ニ相共ニ戦ニ及、ル仇怨ヲ忘レ兩國
ノ人民互ニ自主自由ヲ得テ共ニ兄弟ノ交ヲ結
ヒ合心戮カシテ政選巴ノ合衆國ヲ建シテ是余
等ノ希望スル所ナリ嗚呼世界乃國共和政治ノ
永世無窮ナラシムヲ



海外新聞日三

二國並立の圖



海外新聞廿四号

千八百七十年十一月十六日 我十月廿三日横濱

刊行シヤッパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第九月二十三日 我八月廿八日 本國刊行ホーム

ニウス新聞ヨリ抄録ス

普人巴勒ヲ十分ニ取囲ミ當月十八日 我八月廿三日後
ハ書簡ノ音信ヲ通ズルトモ叶ハズトナリ ○普
ノ太子ノ引率シタル軍勢ト仙將ウイノ口ノ指揮
スル軍勢ト戦ヒタリシガ是迄ノ如ク太子ノ軍

海外新聞 廿四

勝利ヲ獲大砲七門ヲ分取リ生虜二千人有リト云
○普王ハ其本陣ヲフエルリレスニ居ヘ太子
ハウエルサイルニ居ヘタリ○仏ヨリ各國ニ遣
スル使節チエトル氏ハ遂ニ其功ヲ奏スルヲ能
ハザリシガ同國外國吏務執政ジュールファーブル
自ラビスマルクト數度出會ニ及ビ其時未ダ確
実ナル和暁ノ議論ニ涉ラザリシカドモ仏假政
府ニ於テ普ト和暁ノ假條約ヲ結バントセバ仏
人等尽ク之ヲ許諾ス可キヤ否等ノ談話ニ及ビ

タリ○和暁ノ吏ニ付キ仏國ニテ普國ノ所望ヲ
大抵承諾ス可シ唯其談判ノ整ヒ難キ所以ハア
ルサリス及ビロルレインノ二州ヲ永久普國ニ
渡スノ一事ニ在リ○ラランニテ仏兵地雷火ヲ
仕掛ケ普ノ士卒數人ヲ害シタルヲノ報トシテ
普兵殊ニ劇烈ニメツツヲ攻撃シタリ○城寨ハ猶
仏兵ノ有スルモノ多シ○廢帝拿破崙幽囚ニ在
ルウ井ルヘルスホーヘヨリ仏ノ人民ニ公告ヲ為
サントスル由○以太利ゼ子ラールカドルナノ

指揮シタル兵僅カ小戦ノ後ニ羅馬ヲ乗取リシ
 ガ敵味方トモニ死傷少ナキ由○羅馬法王ノ軍
 兵屯所ニ在リテ出ルヲ能ハザリシ○法王ハウ
 ハチカン羅馬ノ中ニ在ニアリ○地奧地利帝第九
 月十七日我八月ライクスラート會議ヲ開キタ
 リ○西班牙ノ政府ハ仏國共和政治ヲ承諾セリ
 故ニ西國ノ使節セノール、ヲロザーガハ不日仏
 ニ至ル可シト○仏ノ假政府ヨリ日耳曼諸港ノ
 往来ヲ遮ル仏ノ兵船隊ヲ尽ク引揚ゲタル旨ヲ

布令シタリ○和蘭ノ國會ハ本月十九日我八月
 國王之ヲ開キタリ○近頃アエニヤン党天主教
 他ニ英國ヲ遁レ加拿者合衆國ヨリ加拿他亞米利加
 英領ノ内ニ侵シ入タルニ付キ之ヲ防クガ為
 ニ英ノ鎮台ヨリ若干ノ出費アリシヲ以テ英ヨ
 リ合衆國ニ償金ヲ求ムルノ景状アリ○喜望峰
 ニ於テ金剛石ヲ産スル原野ヲ檢出セシカバ此
 処ニ諸民雲霞ノ如ク輻輳ス
 第九月廿一日我八月メツヨリ来レル輕氣球百
 廿六日

通余ノ書翰ヲ携ヘテヘ子トランゼノ近傍ノ地ニ降レリ其書翰ニハメツツ城並ニバゼイヌノ兵皆食糧十分ニ備ハリ且兵士ハ擧テ奮發スル由ヲ記シタリ

第九月十八日 我八月十三日 我八月十四日 我八月十五日 我八月十六日 我八月十七日 我八月十八日 我八月十九日 我八月二十日 我八月二十一日 我八月二十二日 我八月二十三日 我八月二十四日 我八月二十五日 我八月二十六日 我八月二十七日 我八月二十八日 我八月二十九日 我八月三十日

兵ツールヲ撃シタリシニ許多ノ死傷アリテ

遂ニ追卻セラレタリト云フ

第九月廿二日 我八月廿七日 我八月廿八日 我八月廿九日 我八月三十日 我九月一日 我九月二日 我九月三日 我九月四日 我九月五日 我九月六日 我九月七日 我九月八日 我九月九日 我九月十日 我九月十一日 我九月十二日 我九月十三日 我九月十四日 我九月十五日 我九月十六日 我九月十七日 我九月十八日 我九月十九日 我九月二十日 我九月二十一日 我九月二十二日 我九月二十三日 我九月二十四日 我九月二十五日 我九月二十六日 我九月二十七日 我九月二十八日 我九月二十九日 我九月三十日

致道會社ニテプロワリ先ノ地ニ蒸氣車ヲ出

スーヲ止メタリ○ピチウイエーニ屯集スル普兵ヲルレアン府ヲ攻メント謀レルヲ以テ其府ノ防守ノ為メ佛兵數隊ヲ繰入レタリ又口セホルニテハ戦兵防禦ノ為メニ供ス可キ金高十萬フラングヲ具ヘタリ

昨日エブリユウヨリ達シタル便リニ普ノ騎兵マシテノ近傍ニ至リ其所ヨリ數多ノ金高ヲ取集メテセイ子河辺ノ本陣ニ歸レル由又メリユニハ普兵ニ侵奪セラレタル由

カルワドスノ鎮台敵兵ヲ防ク費用トシテ三百
 万フランクノ金高ヲ備ヘ又哩昂府ハ一千万フ
 ランクノ金高ト二十万人ノ戦士トヲ備ヘ又川
 ール府ハ常備兵及義勇兵ノ給料ニ用フ可キ夥
 多ノ金高ヲ備ヘタリ○セタン_ニ拿破崙ノ兵敵ヨ
 リ遁レ来レル兵士五百人ツール城ニ入りタリ
 巴勒府ノ所々ニアル拿破崙帝ノ銅像ヲ鎔解シ
 ニ大砲製造ニ之レヲ用ニス○巴勒近傍ノ地
 ニ在ル穀物數万苞ヲ普兵ニ奪レントヲ恐レ之

ヲ燒棄テタリ○巴勒ノ諸藝術学校生徒ハ砲兵
 トシテ使用セララル、由

以太利ノ兵羅馬ヲ取ル事

第九月廿一日_{我八月廿六日}フロレンス府ノ官報ニ左
 件ヲ記シタリ

兼テ以太利國王ノ兵數隊ニテ羅馬府ニ押寄セ
 タリシガ昨日以太利兵ノ惣督ゼ子ラールカル
 ドナハ羅馬法王ノ兵降服ノ事ニ付キ其將カン
 ツレルト談判協議ノ上以太利兵ノ各隊ヨリ精

兵ヲ選ミカルドナ自ラ將トシテ羅馬府ニ入り
 シガ法王ノ兵ハ決議ノ如ク其兵器ヲ引渡シテ
 降参シ又其府ノ人民等ハ以太利國王万歳長壽
 トノ祝声ヲ登シタリ偕其降兵ハシウイタ、ウツキ
 ヤ城ニ送ラレ其内以太利出生ノ者ハ國王ヨリ
 更ニ命アル迄ハ其城ニ留メ置キ外國ヨリ来レ
 ル兵七八各其本國ニ帰ラシム可シトナリ
 以太利ノ新聞紙ニ曰ク以太利王ノ兵羅馬府ヲ
 攻ハル時其死傷極メテ少ク惣計死人七人傷人

二十三人ニ過キサリシ

惣督カルドナハ羅馬府内ヲ鎮静スルノ策ヲ設
 ルノ由○國王ノ兵羅馬ニ打入りタルニ付國中
 ノ都府村落ヨリ國王ヲ祝シ悦フヲ甚シト云フ

リユウトル氏ノ傳信機報告

去ル第十月十日我九月十六日倫敦ヨリ佛ノ内國事務

執政ガムベッタ氏ヨリ佛蘭西諸州ニ布告状ヲ出
 セリ其文ノ大意ハ諸民ヲシテ此度ノ大事件ニ
 付各誠忠報國ノ心ヲ以テ京城巴勒ヲ防禦セシ

メントノ盛大ノ預防ヲ詳述シ且敵兵ヲ掃攘ス
ル為メ全國ノ人民舉テ奮起ス可キヲ懇切ニ
明辨シタリ

佛蘭西ニテ議負選舉ノ一ヲ延引シタルハ其國
内二十三州ニ於テ戦乱ノ為メニ其選舉ヲ為シ
得サルヲ以テナリ

同月十一日我九月十七日倫敦ヨリ既ニ普兵ノ有トナ
リタルアルピースノ住民ハ或夜普兵ヲ欺キ佛
兵トカヲ戮セ普ノ騎兵一大隊ヲ攻撃シタリシ

カハ普兵大ニ之ヲ憤リ其村落ヲ焼打シ滅セリ
普國ノ廻文ニ此節巴勒、近傍數里間ニ食糧少
シモ之無キヲ以テ巴勒ハ必ス大ニ飢饉ノ害ヲ
蒙ル可シトナリ

ガリバルディー氏仏國ノ義兵隊總督トナレリ
仏兵第十四番隊ノ總督ニハオルセナームアル子
イヨリ本日ト字オルレアンスニ傳信機ノ報告
ヲ為セリ其言ニ其總督歩兵一ブリゲード隊及
ヒレヤツソール兵數小隊ヲ以テ日兵ノ宿營ヲ攻

撃ニ九、五字ノ間戦ヒシガ遂ニ日兵ノ為メニ森
林ノ中迄追退ケラレ此所ニテ防戦セントシタ
リ此戦ニ日兵ノ数夥多ニシテ殊ニ砲数極メ
テ多カリシトナリ
其総督歩兵四大隊砲兵一バッテリーヲ應援トレ
テ直ニ差越ス可キ由ヲ言送リタリ
同月十二日我九月十日倫敦ヨリアルテ子イ戦争ニ
付テ普人ノ説話ニ仏人其所ニ千人程ノ生虜ト
砲銃トヲ捨置テ散乱シララルレバ、ノ方ニ退

去シタリ佛ノ大軍援兵トシテ同所ニ到着セリ
○普人巖クチヲンビイルヲ取冊メリ○月曜日
我九月十日終日メツニ於テ烈シキ砲戦アリ○普國
新聞ニハ何レモ和議ヲ為ス可シトノ旨ヲ載セ
タリ○以太利國王是迄羅馬法王ノ領シタル諸
州ヲ尔後其國ノ一部ト為ス可キ由ヲ布告セリ
同月十一日我九月十日オルレアンヨリオルレアン
ノ外郭ニテ戦争アリ破裂彈雨ノ如クニフルス
ボルダニ降着シタリ○同十日ニ我九月十日ドリユウ

ニ於テ戦アリシガ共勝敗無リシ普兵其近傍ナ
ル数多村落ヲ燒ケリ
同月十三日我九月十九日倫敦ヨリ普兵終ニオルレア
ニ府ヲ攻取リ仏兵ハロワール河ノ左岸ニ陣ヲ
布ケリ○仏將デラモット免職トナリパラルグイ
ン之ニ代リリ
ゼ子ラールガリバルグーハ蓋シウラージト山邊
ノ戦地ニ出張セシナラン○官報ニ巴勒ノ攻撃
ハ先其郭外ノ小砦ヨリ始マリ後ニ都府ニ及ヘ

ルナル可シト○モツツノ近傍ニ病人影シクアリ
且ツ牛ノ厄病大ニ流行ス○佛ノ兵船隊急ニエ
ル之河口普國ニ在リニ歸着ス
印度ト歐羅巴トノ傳信線報告
第十月十三日我九月十九日倫敦ヨリオルレアニ府ハ
昨日普兵ノ為メニ急撃セラレ遂ニ攻取ラレタ
リ佛ノロワール河邊ノ兵九時ノ間防戦セシカ
遂ニ力屈シ河ヲ渡リテ遁レタリ此時生虜トナ
リタル佛人凡ソ千人程ナル由

普軍ニ属スル数多ノ撒兵ル
 進ミタリ○又普兵アミアン
 ○昨日巴勒ヨリノ氣球新聞ニ府中ノ人民鎮靜
 ニシテ何レモ決心ノ様子ナリト○佛將ゼ子ラ
 ールブルバッキ普人ノ免許ヲ受ケメツツノ城將
 ノ内命ヲ奉シ先ノ皇后ノ許ニ至ル可キ密使ト
 シテメツツヲ發足シタリシカツウル府ニ至リテ
 兵ノ指揮ヲ為シタリ
 英國女王ハ其女ルイザトアルジル侯ノ嫡子口

一 侯ト婚姻ヲ結フ可キノ事ヲ承諾セリ

英吉利領印度傳信線報告

同月十四日我九月二十日倫敦ヨリ氣球ノ報告ニ普人
 ハ巴勒ヲ圓形ニ取巻キシガ次第ニ追卻ケラレ
 圓形ヲ狭メテ押迫ルヲ能ハズ却テ擴ルトナ
 レリ○佛兵ハ普兵ヲ其陣所ヨリ追卻シ其峯柵
 ヲ擊破レリ○メノツチガリバルヂー及ビリノツチ
 ガリバルヂー二人共ニ有名ナルガリバルヂーノ子ノ兩人不日仏
 國ニ着港ス可キ由ナリ○普人、仏

北方ノ諸城ヲ圍ムノ企テアリ

米利堅ゼ子ラールリ死去ス此人ハ米利堅南

ノ將ニテ大功アリ者ナリ

同月同日倫敦ヨリ昨日ノ新聞ニ仏人セイック

ルトノ宮殿ヲ自燒シタリ○仏兵十大隊府ヲ出

テ戦ヒシニ容易ニ普兵ノ為メニ追卻セラレタ

リ

普人フレトイルヲ占據シミアンソ方ニ進發

シ又ジソルスニテ軍勢ヲ聚合シルリアンニ向

テ進發スルノ用意アリ○仏人オルレアンニテ

敗績シタルハ全ク普兵ノ數仏兵ヨリ多キニ

レルト云フ○モニメギーノ衛兵時機ニ乘シ突

出システ子一ニ在ル普ノ衛兵ヲ生虜下シタリ

○普兵ユビナルヲ攻取リタリ又普兵五千程ニ

テニューフリサクヲ烈シク攻撃ス○本月七日我

三月十日ノメツ郭外ノ戦ハ殊ニ苦戦ニシテ雙方死

入夥シト云フ報告ヲ得タリ

同上傳信線ノ報告

同月十五日 我九月廿一日 倫敦ヨリ普兵ソノソノ及ビ
ウエルチンヲ取囲ムト雖氏城兵少シモ屈セズ精
撰ノ砲兵ヲ具ヘテ防戦ス

佛ノ内國事務執政ガムベック氏ノ出セル布告状
ニ仏兵巴勒ノ周圍ヲ取囲ミタル普兵ヲ次第ニ
追卻ケ勝利ヲ獲タルハ實ニ喜フニ堪ヘタル旨
ヲ記シタリ然ルニ普人ノ方ニテ言ヘルニハ普
兵ノ斯ク退去シタルハ素ヨリ深意アルニシ
テ不日ニ砲戦始ムル時ニ至ル迄ハ普兵一ハ受

手ト為リテ戦ヲ為シ其時ニ至リ仏兵城ヨリ出
テ戦ハバ普兵急ニ其兵勢ヲ変シ烈シク巴勒ヲ
攻ム可シトナリ

米利堅ノ大統領グラント氏ハ仏普戦争ノ應援
ノ為メ米國ニテ兵士ヲ募ルニテ嚴シク禁スル
布令状ヲ出セリ○仏ノ野武士等戮カシテ大ニ
普兵後衛ノ應援ヲ妨ケタリ○本日ノタイムス
新聞ニ此度ノ戦争ニテ仏普互ニ仇敵ノ思ヒヲ
新々ニ増セルヲ歎シ因テアルサース及ビロ

ルレインノ二州ノ城寨ヲ仏ニテ自カラ毀ツ
ヲ以テ兩國和議ヲ講スルノ有リテ近頃比利時
國ノ事ニ付英仏普ノ三ヶ國ニテ結ヒタル如キ
條約ヲ又此三ヶ國ニテ結ブ可キヲ云ヘリ
同月十六日我九月廿二日倫敦ヨリガリバルヂーハ
ガシソン^地ニ到着シ懇切ノ招待ヲ受ケタリ
普將ウエルテン日ノ第十四番隊ヲ引率シ仏ノエ
ビナル府ヲ攻取レリ○十三日我九月二日巴勒
ヨリ仏兵ミヤチヨシノ方ニ進ミ出テ敵ヲ敗リタ

ル由○普兵ルーフンノ方ニ進發ス
同月同日倫敦ヨリ本日仏ノウエルセイヨリノ
官報ニ是迄巴勒ノ郭外ニテ仏人ノ勝利ヲ獲タ
リト云フ説ハ仏人ヲ奮發セシムル為メニ偽リ
設ケタルナリト云ヘリ○ソワソン府ハ凡四
日程固守セシガ竟ニ普兵ニ降レリ○ゼ子ラ
ルガリバルヂーハウラジエ州ノ撒兵隊ノ總督
ニ撰任セラル○ツウル府ニ在ル仏ノ假政府ノ
廻文ニ我寛大ナル仏蘭西ハ固ヨリ他國ノ地ヲ

奪取ルノ意決シテ之無ク且日耳曼ノ教ケ國皆
合同シテ一大國トナラントスルモ必シモ妨害
ヲ為スノ意無シト云ヘリ其文ニビスマルク氏
ハ仏ヲシテ歐洲第二等ノ國ト為サントスル意
ナリト云ヘリ方今迄ハ英仏魯普墾ノ五ヶ國ヲ
名付ケテ第一等ノ國トシ西以土
瑞蘭等ノ國々ヲ名付
ケテ第二等ノ國トス
同月十七日我九月三日倫敦ヨリメツツ城ノ總督ヨリ
寄手ノ普軍ノ將帥ト談話ス可キ任ヲ受ケタル
使者普王ノ姪フレドリクチャーレスノ陣ニ至

リ其後ウエルサイルニ向ヒ發足シタリシガ其主
意未タ人ノ知ルヲ無シ
仏ノニューブリサックノ守兵城ヲ出テ戦ヒシカ遂ニ
追卻セラレタリ
仏ノ里昂府ノ共和政治激党再度其地ノ町奉行
所ヲ襲ハントスル由
巴勒ヲ攻囲スル普兵許多ノ援兵ヲ得タリ

巴勒近傍之圖



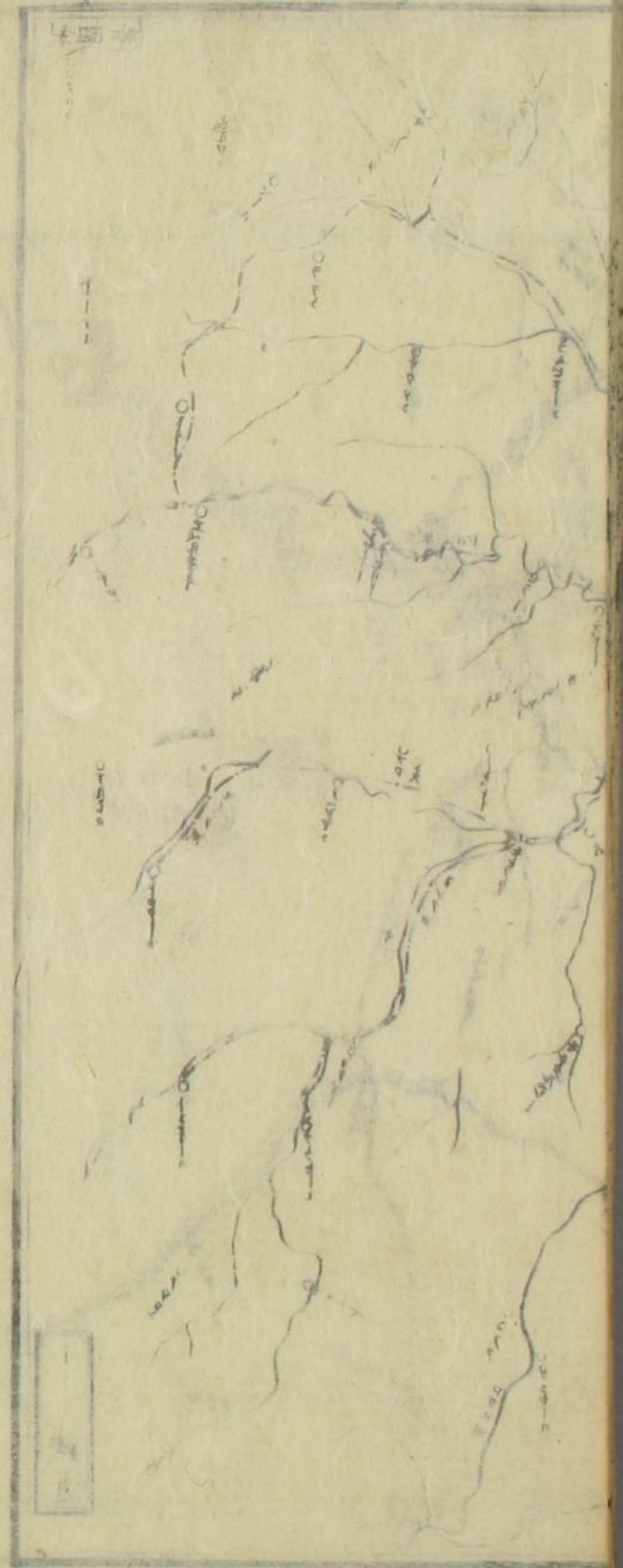
海外新聞廿五號

千八百七十年十一月十九日 我十月廿六日橫濱
 刊行ヂヤツパニウイークリー、マイル新聞ヨ
 リ抄譯ス

天津ノ事件落着ノ始末

佛ノ公使コオントロシアルヨリ上海ノ商
 人會議局ヘ天津暴殺ノ始末ヲ今般支那政府ヘ
 談判ニ及ビ片附クベキ約定ノ趣ヲ記シテ送リ

天津新報之圖



海外新聞廿五號

千八百七十年十一月十九日 我十月廿六日橫濱
刊行ヂャツパニウイークリー、マイル新聞ヨ
リ抄譯ス

天津ノ事件落着ノ始末

佛、公使コオントロシニアールヨリ上海、高
人會議局へ天津暴殺、始末ヲ今般支那政府へ
談判ニ及ビ片附クベキ約定、趣ヲ記シテ送り
タルヲ左ノ如シ

右ノ事件ニ横死セル者ハ二十五万タエル約
三十七万五千元ニ當ル禮拜堂居宅等ヲ破壊シタル償ニハ
二十一万タエル大約三十一万元ニ當ルヲ差出シ奉行一
人下役一人并ニ乱妨人二十四人ハ黑龍江へ追
放シ其外先般刎首セラレタル十六人ト合セテ
二十人ノ者共ハ死罪ニ行フベシトナリ
但シ此件々ハ安那人ヨリ箇様ニ取計ル可シト
申出セルトニテ佛公使ハ然レハ我本國政府へ
其趣談判ノ為ノ官吏一人差越サルヘシトノ由ニテ

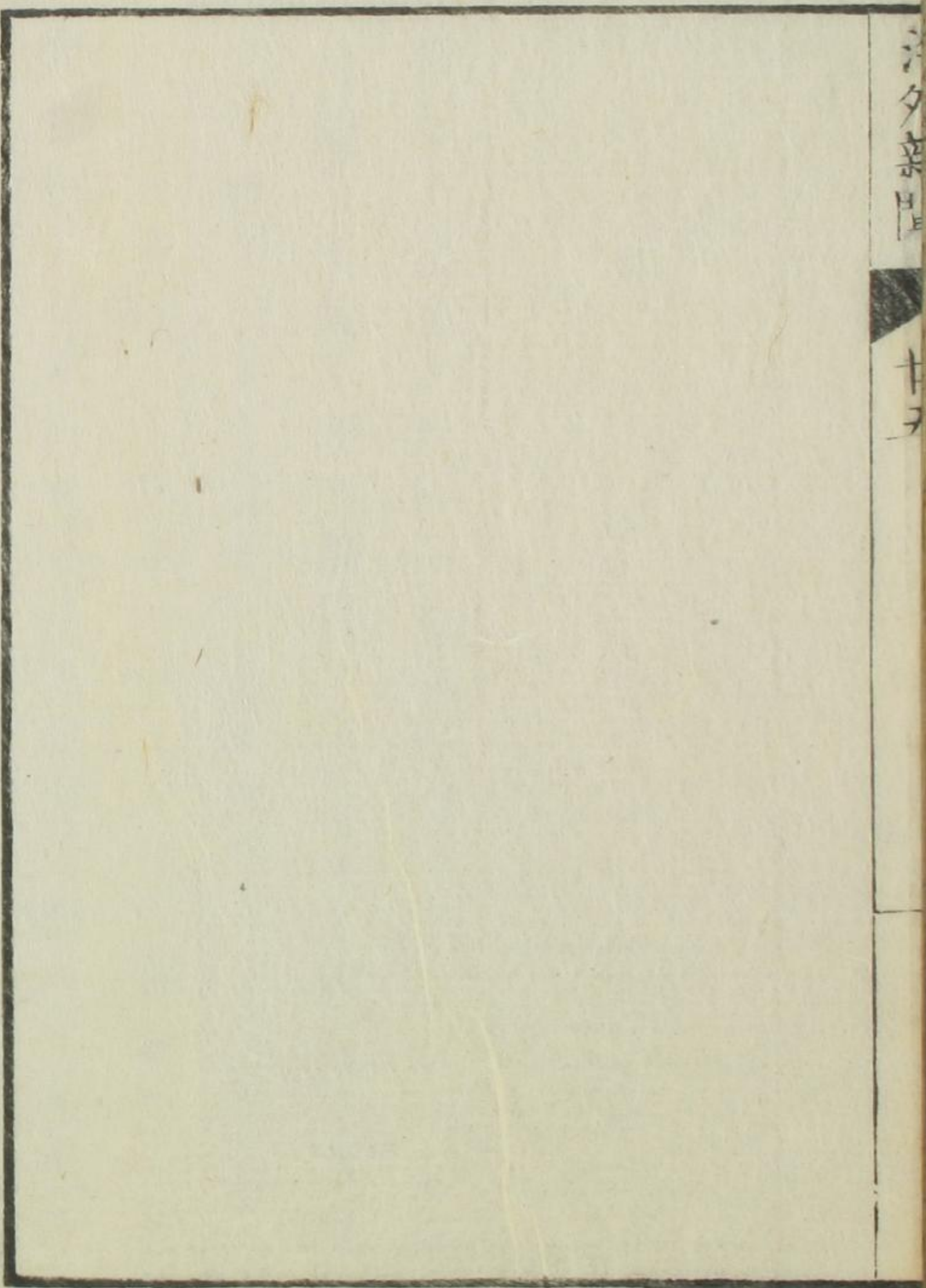
之ガ為メニ已ニ支那ヨリ一人ノ官吏ヲ遣ハシタ
ルトナリ然レモ右ノ如キ約定ヲ佛ト支那トノ
間ニ取行ヘルハ甚タ理ニ合ハスト謂ツヘシ其
故ハ是等ノ縱緩テスルキ約定ニテ今般事ヲ済ス片ハ
向後外國人ノ支那ニ在留スル者早晚イッレカ彼危難ニ
逢フトハ必定セリトカクニテ加之支那ト萬事ノ掛合モ是
迄ヨリハ尚十倍モ六ケ敷ナルヘシ又既ニ十六
人ノ罪人ヲ刑場ニ引出シ取扱フタル様子ヲ觀
ルニ罪人ノ被ルヘキ衣服ヲモ著セス罪アリテ

刑ニ行ハル、者ノ如クニハ非スレテ視儀ノ席
ニ饗應スルカ國ノ為メニ身ヲ棄ル者ヲ扱フ如
ク至テ丁寧ニ取扱ヒタリ箇程ノ事ナレハ常ノ
如ク其頭ヲ籠ニ納レテ市ニ肆スニモ非ス又其
死骸ハ朋友等申合セ引受テ相應ノ礼ヲ以テ葬
リシノミナラス之カ為メニ碑石ナトラ建テ、
其國事ニ死セル事ヲ勅レ且其親屬ノ者ハ政
府ヨリ夫々ニ賞金ヲ與ヘシト云ヘリ
抑曩ニ横死セル佛ノ十三人ノ尼ハ其德操實ニ

女中ノ鑑トモナルヘキ者ニテ信ニ非業無慈悲
ノ乱殺ニ逢ヒシニ其身代金トテ一人前僅ニ四
千ポンド宛ノ金ヲ受ルノミナリ然ルニ彼支那
ノ二十人ハ人モ知ル如ク官吏等ノ道具トナリ
テ右ノ如キ大罪ヲ犯サシメタル者ナルニ是ヲ
ハ死後ニ碑石ヲ建テ功德ヲ表シテ賢女ト賞ヲ
均クスルトハ其賞罰ノ濫ナル歎スベキノ至リナ
ラスヤ今愚意ヲ以テ觀ル片ハ曩ニ佛ヨリ申出
セシ如ク五百有餘ノ人ヲ刎首セヨト言ハ、殘

酷ニ過キタリトモ謂ベケレト先佛ヨリハ彼乱
殺ヲ手傳フタルカ左ナクトモ者々之ヲ抑留メ
サル役人等ハ咸ク死刑ニ行ハシメ又天津ヨリ
ハ試業ノ為メ北京ノ學校ニ書生ヲ出スコトヲ禁
シ是本府ノ為メニハ一且燒棄ラレタル禮拜堂
大患ナルベケレハナリ
ヲ再建シタル上ニ支那人ノ犯シタル罪状ト之
カ為メニ被リタル刑罰トヲ石ニ刻シテ後世ニ傳
ヘシムベシ却説此等ノ事ヲ委ク論辯セハ此一
号ノ全紙ヲ填ルモ亦載スルニ足ラサルベレ畢

竟支那ヨリ申出セル右ノ條件ヲ佛ニテ承諾ス
ル片ハ支那ニ在リテハ却テ十分ノ勝公事ト思
ヒ左無クテスラ付上リ易キ風俗ナレバ遠カラ
ス復タ天津ノ如キ暴殺ヲ為出シテ終ニハ大戦
争ヲモ引起スナルベシト思ヘバナリ



千八百七十年十一月十九日我十月廿六日横濱
刊行佛文エコー、ヂニジャツポン新聞ヨリ抄譯
ス

支那恭親王ヨリ天津暴殺落着事件ニ付
佛公使ロシシワール氏ニ贈レル所ノ書

翰千八百七十年第十月十八日我九月廿四日附ナリ

天津暴殺一條ニ付歐洲人ノ憤怒且哀悼スルノ
意ヲ表セル貴翰及ヒ其暴殺ニ遇ヘル者ノ姓名
書一通ヲ謹テ落手シタリ

斯ク意外ノ災厄ノ新聞ヲ得ルハ我等ニ於テモ亦大ニ傷心哀痛スル所ナリ兼テ貴國ト我國トハ多年來懇親ナリシニ是等ノ事件圖ラス差起リタルハ實ニ我等ニ於テ當惑ノ至リナリ我政府ニテ暴殺ノ償トシテ二十五万タエルの金高ヲ出サント決定シタルヲ以テ貴下我會計宰相へ談判ノ上キヤンナム及ヒコアシトシノ税官ヨリ其金高ヲ落手ニ殺害ヲ受タル貴國^三士^三ホシタニエー氏以下ノ官員及ヒ商人等ノ親

族ニ別紙ノ如ク配分ス可シ又天主教寺院ノ得可キ金高ハ其寺院ノ方ニ遣ス可シ本月十三日附貴翰ニ天主教寺院其他ノ損失スル所二十一万タエルの金高ニ及ヘルヲ記ス今我政府ニテ天津ノ税官ヨリ之ヲ貴下ニ償フ可キヲ決議シタリ

別紙

岡士ホシタニエー

三万タエル

書記官スシモン

二万タエル

書記官ゼトマッサン及ヒ妻 五万タエル

商人ドシヤルメイゾン 一万タエル

同人妻 一万タエル

寺院造營 十三万タエル

統計二十五万タエルナリ

刑ニ處セラル、者ノ姓名

二十一人連名

右ハ外國人ヲ殺害シタル罪ニヨリ斬罪

五人連名

右ハ外國人ニ傷ケ且盜罪ヲ犯シタルニヨリ
十^ケ年追放

十八人連名

右ハ同上ノ罪ニヨリ三^ケ年追放

千八百七十年第十一月廿三日 我閏十月朔日横濱

刊行同上新聞ヨリ抄譯ス

第十月十八日 我九月廿四日 倫敦ヨリソソソニテ普
 軍ノ獲タル所ハ大砲百三十二門生口四千人ナ
 リ○メツ守兵ノ總督バゼイヌヨリ其補佐ノ士
 官一人ヲウエルサイルノ普陣ニ送リメツ城ヲ開
 テ普兵ニ渡ス可キヲ談判シタル由○巴勒ニ
 テ和議ノ談判ニ及ヘル由ナルガ其決議ハアル
 サース及ヒロルレインノ二州ヲ日耳曼ニ渡セ

ルナラシ

佛ノ執政ガムベッタハウラージュ山中ノ兵ヲ見
分セシガ為メニ發足シタリシガ三日ノ内ニハ
ツウル府ニ帰來レルナル可シ

佛將ブルバキハ北方ノ軍兵ノ總督ニ任セラ
レタリ

第十月十九日我九月廿五日倫敦ヨリ普兵モンヂ、
ルト云ヘル小府ヲ攻取リ五十万フランク我十
万兩
許ハ用金ヲ其府中ニ言付クタル由

普兵ベザンソンヲ距ル七廿七里ナルウエズー
ルヲ攻取リタリ○ロワール河邊ニテ大戦アラ
ントスル由佛兵ハ大ニ應援ヲ得タリト云フ

普ニテ和議ヲ為スニ付佛ニ求ムルノ條
件

同月同日倫敦ヨリビスマルクヨリ和議ヲ為ス
ニ付佛ニ求ムル所ハ八千万ポンド我四万
万兩許ノ
償金ヲ獲ルトアルサースロルレインノ二州ヲ
以テ中立ノ獨立國ト為シ十ヶ年後ニ至リ其二

州ノ人民ノ入札ヲ以テ佛ニ属スルヤ又ハ普ニ
属スルヤヲ定ムルトノ二件ニ在リト且和議ノ
談判ハ巴勒ニ於テ之ヲ為ス可シトナリ○聖彼
得堡ノ官府新聞ニビスマルクヨリ求ムル所ノ
箇條ハ佛ノフアーブルハ之ヲ承諾スルヲ然ル
ベシト言ヒシガ他ノ執政輩ニハ之ヲ肯セスト
ナリ
當今佛ノ地ニ在ル普兵ノ數ハ六十五万人ナリ
シ

第十月二十日我九月廿六日倫敦ヨリ伯靈ノ官府ノ新
聞ニ當今佛ト和議ヲ講セントスルトノ新聞ハ
未タ確信ヲ取ルニ足ラス故ニ佛人ヲシテ普ノ
求ムル所ノ條件ヲ拒ムヲ無クシテ和議ヲ為ス
ノ必要ナル旨ヲ知ラシム可シトナリ
次ノ一週中ニ普軍巴勒周圉ノ小砦ニ砲發シ攻
戦スルヲ始ム可シト○シャトーダンハ十時間
烈シク防戦シタル後遂ニ普兵ニ降レリ
ガムベッタハツウル府ニ歸レリ

普軍ヲルレアン府へ六十万フランク
我十二万兩許ノ
用金ヲ出ス可キヲ命シタリ

同月同日ツウルヨリツウルノ佛假政府ヨリ本

月十日我九月十六日ノ普ノ廻文ニ答ヘテ一通ノ廻文

ヲ出シタリ其文ニ戦争ヨリ人民ノ困難ヲ生ス

ルノ責メハ其各政府ニ在ルヲ無シ政府ニテハ

永又ノ和睦ヲ為サント欲スルニ在ル旨ヲ記シ

タリ

ノツツ城ハ普軍ニ降レルノ風評アリ

同日倫敦ヨリ不日ニ和議整ノニ至ル可キハ
衆人ノ信スル所ナリ

第十月廿一日我九月廿七日倫敦ヨリ本月十四日我九月

十日我九月廿一日トノ兩日各國ノ使節等巴勒

トウエルサイルトノ間ニ往来セシカ其趣意ハ

和議談判ノ事ナル可シト思ハレタリ○ニウブ

リサクノ守兵城ヲ出テ戦ヒ利ヲ獲テ日耳曼兵

二百人ヲ打取り又ハ傷付ケタリ

本月十八日我九月十四日ノ夜普兵巴勒守兵ノ先陣ニ

向ヒ二回進撃シタリシガ死傷多クシテ遂ニ退却シタリ

巴勒ハ火攻ヲ受ントスル以前ニ敵ヨリ降参ス可シトノヲ言送ル可シト

佛ノ外國事務執政ジュール、フリーブルノ言ヘルニ巴勒ノ七民ハ普人ノ強ヒテ求ムル所ヲ承諾セシヨリ寧ろ如何ナル難儀ヲ受ルヲモ堪へ忍フ可シト

佛ノゼ子ラールボワイエーハ兼テノッツ開城ノ

事ニ付普軍ノ方ニ談判ニ至リレカ今度普ニテ

求ムル所ノ條件ヲ兼リテ城中ニ帰来レリ

仏ノフルマングー邸ニ於テ頗ル防戦ノ用意ヲ

為セリ○メクレンビユルグ普ニ与スル日ノ兵

五万人サンカンタンノ方ニ進メリ○埋昂ニハ

二月間ノ兵糧ヲ備ヘカリ○普兵グアルジュニ

進マントス○ウエルサイルヨリノ傳信機報告ニ

十九日我九月廿五日、夜烈シキ砲戦ノ響ヲ聞キタリ

第十二月廿二日我九月廿八日倫敦ヨリメジエールニ

テハ暫時休戦ノ期終リシヨリ普軍ニハ速ニ砲
 撃ヲ始メ可シ此城兵ノ數ハ五千程ナル由○
 普兵四千入攻城砲ヲ以テビツチエ城ヲ圍メリ
 普兵アミアンヨリ三里ノ所ニ在リ
 昨日ウエルサイルヨリ達シタル新聞ニ仏兵十
 二大隊ノ大砲四十門ヲ具ヘモンワレリアン岩
 ヨリ打出テ三時間激戦ニ及ビシカ生口百人大
 砲二門ヲ失フテ追卻セラレタリ
 同月同所ヨリメツ城ノ總督バゼイヌノ補佐ノ

士官ゼ子ラールボワイエームツノ城ヲ出テ英
 國ニ至リテ仏ノ先ノ皇后ニ面謁セントス○伯
 靈ヨリノ報ニメツ城ニハ食糧乏シキヲ以テ兵
 士大ニ窮迫シ其城ヨリ遁出ル者甚多レト云フ
 日軍ハ之ト異ニシテ次第ニ勇武ヲ増スノ勢ナ
 リト
 ツウルヨリノ報ニロワール河邊ノ仏兵ハ次第
 ニ應援ヲ得テ其威勢熾ンナル由
 第十月廿三日我九月廿九日同所ヨリ英吉利ハ仏ニテ

建國法ヲ立ル會議ノ負ヲ選舉シ得セシメンカ
為メニ普ト仏トノ間ニ一時休戦ヲ為サシメン
トス又埃以魯ノ三ヶ國モ之ト同意ナル由ナリ
諸普ノ方ニテ云ヘルハ仏ヨリ我望メル地ヲ引
渡ス時ハ早速休戦ノ義ヲ兼諾ス可シト
シヤルトル府ハ日兵二万人ノ為メニ攻撃セラ
レ遂ニ之ニ降レリ○普軍サン、カンタン府ニ二
百万フランク我四十万兩許ノ用金ヲ言付タリ
仏將ブールバキハリール府ノ本陣ニテ北方ノ

兵ヲ指揮シ又仏將ガムブリエールハベザンソ
ン迄東方ノ兵ヲ指揮ス
土耳其ト希臘ト以後與國トナリカヲ戮セテ相
共ニ攻撃防戦ヲ為ス可シトノ條約ヲ結ヒタリ
リエウテル氏ノ傳信機報告
第十月二十四日我九月晦日佛政府ハ倫敦ニテ一千
万ポント我五千兩許ノ金高ヲ借入レントス
仏普兩國一時休戦ヲ為ス可キ談判ノ事ニ付未
タ新聞ヲ得ルヲ無シ

日兵ハサン、カンタン及ヒアミアンヲ引退キラ
フエールノ圍ミヲ解キ其軍勢ヲラランニ羣聚
ス
新嘉坡ニ達シタル本月二十五日我十月ノ書状
ニ仙ノ公使チエールハツウルノ政府ノ意ヲ聞
キタル後和議ノ談判ヲ為ス可キ任ヲ受クル
ヲ兼諾スベシトノ旨ト普ノ方ヨリ仙ノ先皇后
ヲ正當ノ政權アル者トシテ皇后ニ和議ノ談判
ヲ為サントセシニ皇后之ヲ肯セザリレ旨トヲ

記シタリ

千八百七十年第十月廿八日我十月
哥刊行每週新聞ヨリ抄譯ス
桑西斯

本月二十日我九月廿六日米利堅ノ大西洋海岸近キ各
地ニ地震アリテ所ニヨリテハ頗ル烈シキ由ナ
レドモ家屋傾覆人命ヲ損失スル等ノ一ハ無リ
米利堅ニテ會議ヲ為シ其國都ヲ華盛頓ヨリ他
所ニ遷サントスル評議ニ及ビタリ其趣意ハ米

利堅ノ國都タル可キ地ハ如何ニモ學藝開明文
運隆盛ニシテ現今開化ノ各國人民ヲシテ感賞
セシム可キニ華盛頓ハ如此景状ヲ得ベキ地ニ
非ス獨リ紐育手育コソ其至當ノ地タルベキヲ以テ
ナリ

海外新聞止五号畢

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

藏版

